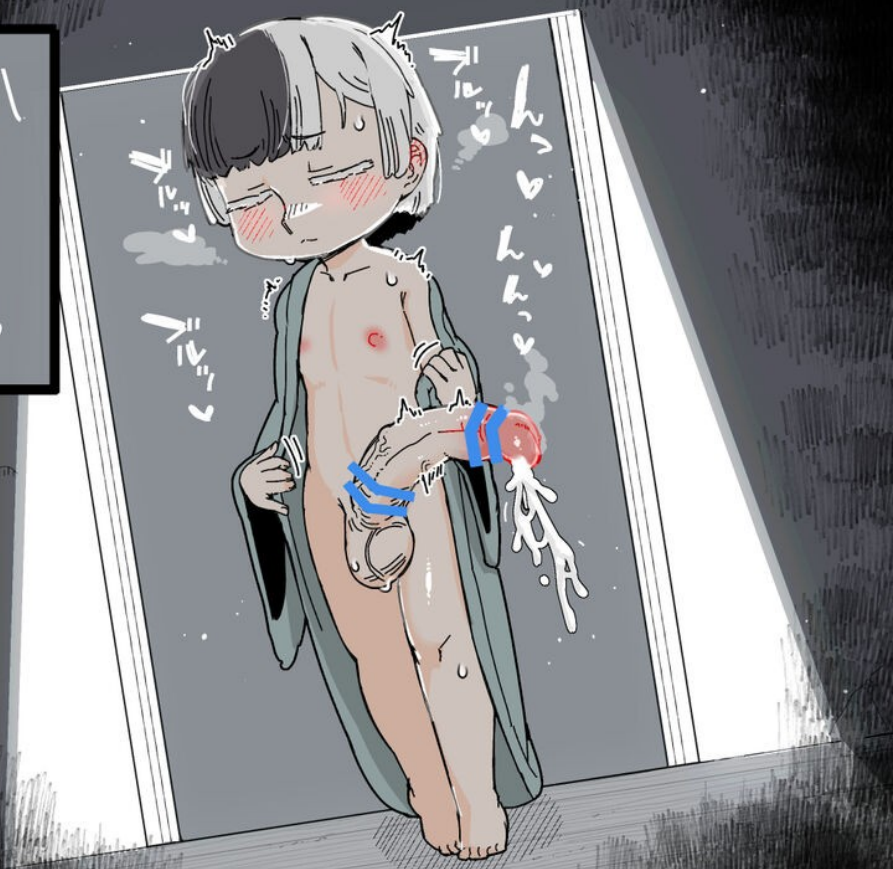


蔵からの手紙

まとわりつくニオイ





1の手紙
母から僕宛てのもの

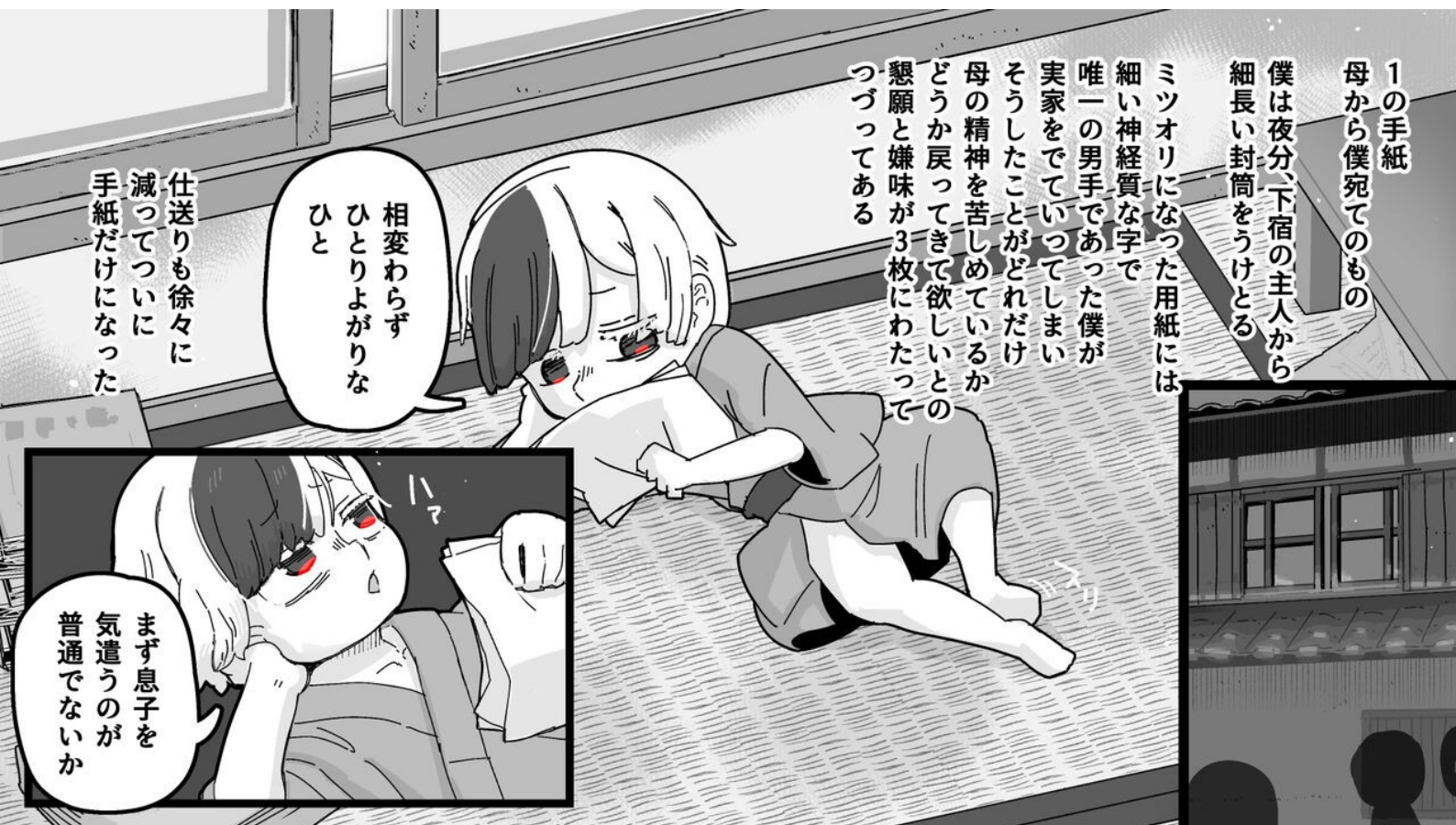
僕は夜分、下宿の主人から
細長い封筒をうけとる

ミツオリになった用紙には
細い神経質な字で
唯一の男手であった僕が
実家までいつてしまい
そうしたことがどれだけ
母の精神を苦しめているか
どうか戻ってきて欲しいとの
懇願と嫌味が3枚にわたって
つづつてある

相変わらず
ひとりよがりな
ひと

仕送しも徐々に
減ってついに
手紙だけになった

まず息子を
気遣うのが
普通でないか





鼻腔で
感じ取る

手紙に染み付いた



なつかしくて
きれいな「オヤ」

自分の
生まれた家では

常にこの分子が
空気中に漂っていた

玄関から客間
台所から風呂

畳や階段
襖も柱にも

あらゆるもの
そこらじゅう
こびり付いている
カビカビに渴いた
干物みたいなニオイ

鼻の奥につくと
頭がくらくらする

なつかしい
すえたニオイに
体が勝手に
反応してしまう

...

♡♡♡♡♡

むわっ♡

これではまるで
心理学でいう
パブロフの犬だ





ほかみたいに
勃起しやすい
体質に嫌気がする!

ニオイの分子⇨勃起
なんて迷惑な心理回路!

また...♡

さっき出した
ばかりなのに...



心根から
望んでいる
わけではない

もしそうなら
僕はまったくの
変態性欲の持ち主だと
いふことになってしまう

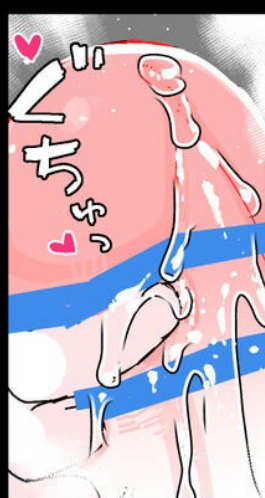
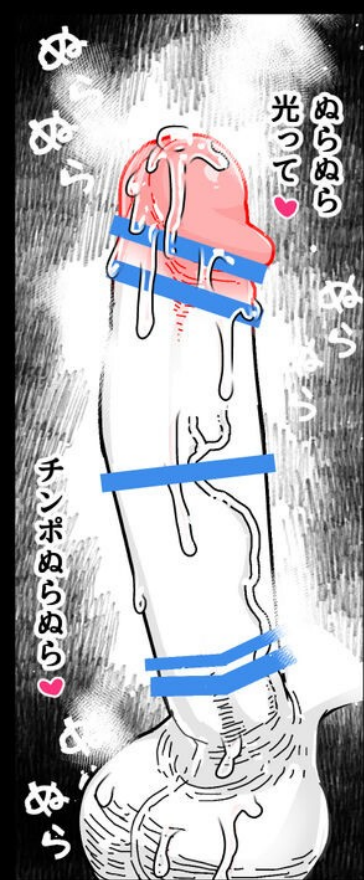
じと

...

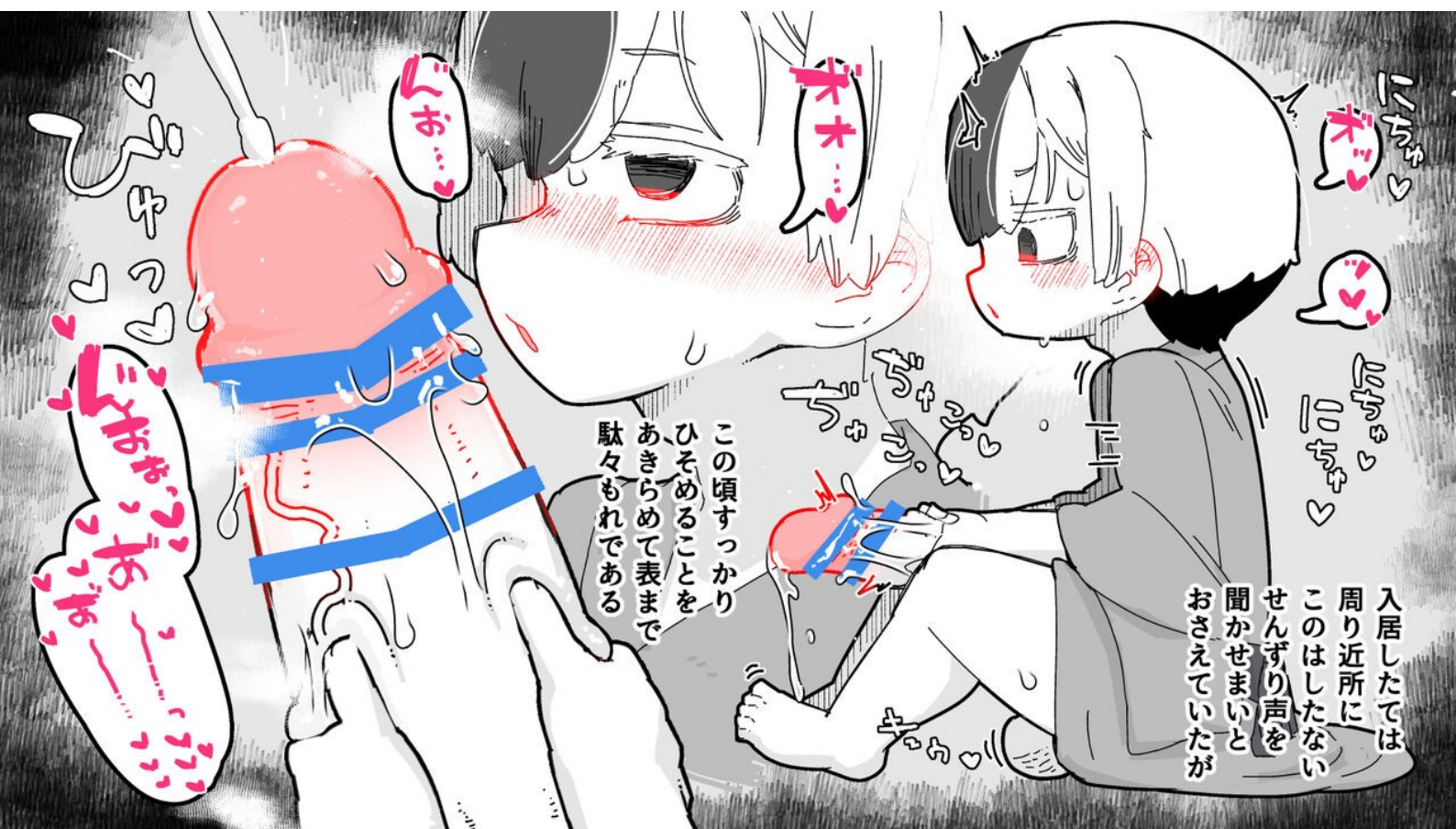
こんな手紙が
悪いのだ

勃起したチンポに
手をかざすと
あったかい













こんなこと
続けていると

あの家にいるのと
何も変わらない

実家の土蔵には
『フタ様』という
化け物がいた



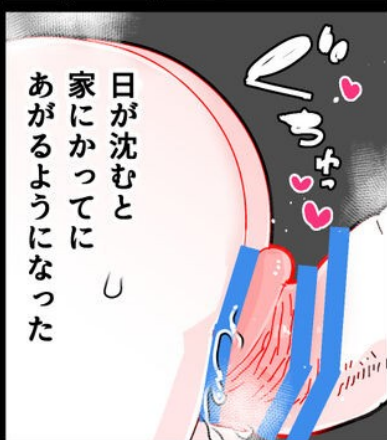
月の無い真つ暗な夜のみ
土蔵の門が抜かれ
フタ様がうちにくる



しかし
父様の死後

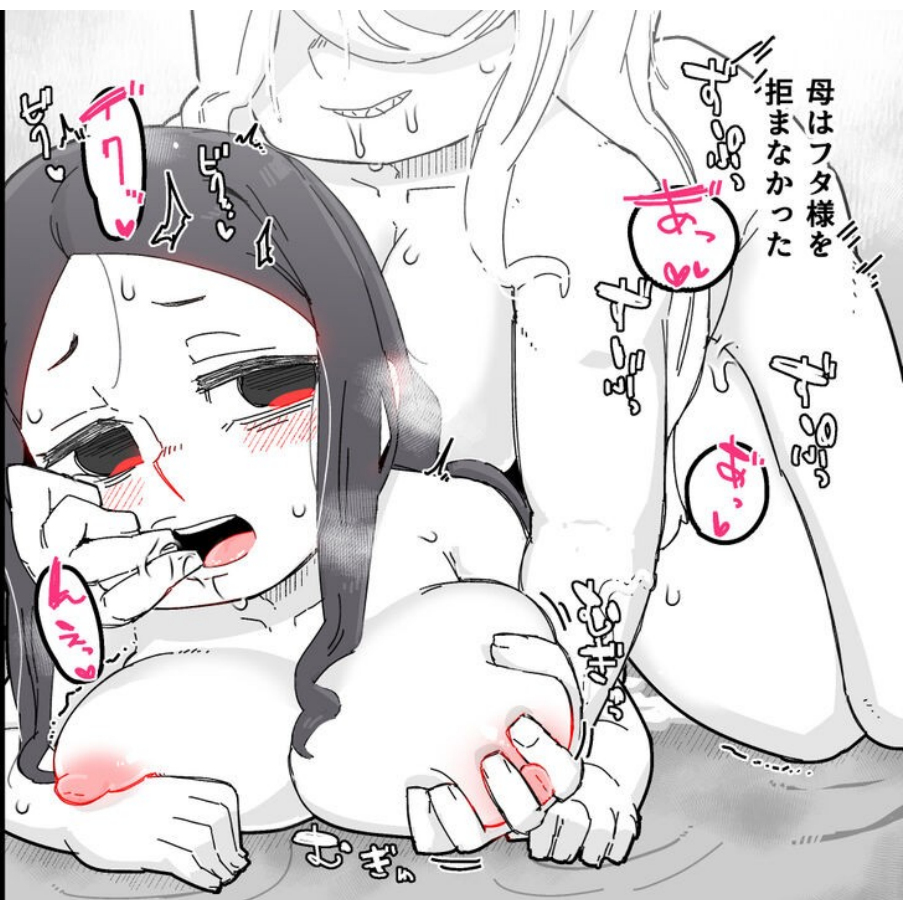


日が沈むと
家にかつてに
あがるようになった



毎晩フタ様は
大きい手で
母のむちむちした
尻をがっちりつかみ
ばんばん ばんばん
腰をうちつける





母はフタ様を
拒まなかった

とろけきつた
表情をみて
父様に申し訳ないと
思わないのかと
苛立ついたのを
覚えている

そして恥知らずな
親の血がながれている
自分の体に嫌気がした

2の手紙
妹から僕に宛てたもの

大きく丸い字で
ひらがなが多い
母が病に臥せたので
かわりに自分が書いたとある



「あにさま また
山ブドウをいっしょに
さがしにゆきまじよう」



あにさまと呼んで
どこへでもついてくる
小さな妹を思い出すと
自然と笑顔になっていた

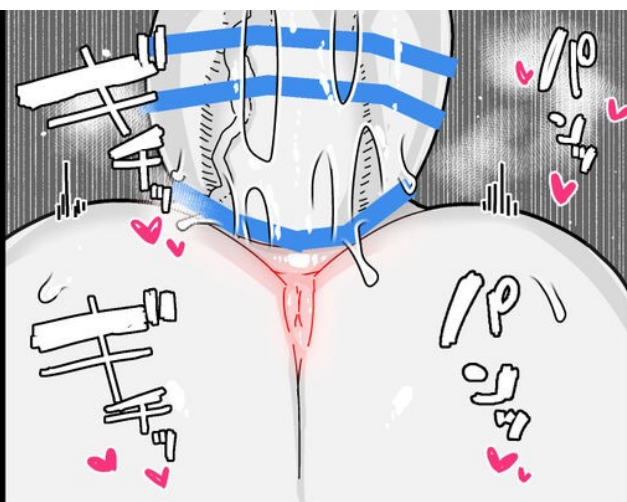
郷里の空が
臉の裏によみがえる



高く伸びる積乱雲
青々とした野山も
ここには無い
ひとりしかない部屋

気分が乏しくなる

手紙から
インクとは別の
臭ぎなれたニオイ



ああ この手紙を書きながら
妹は ああ ああ...♡♡♡









指で輪をつくり
カリ首を何度も何度も
なぞてやると

うれしそうに
よだれを垂らす

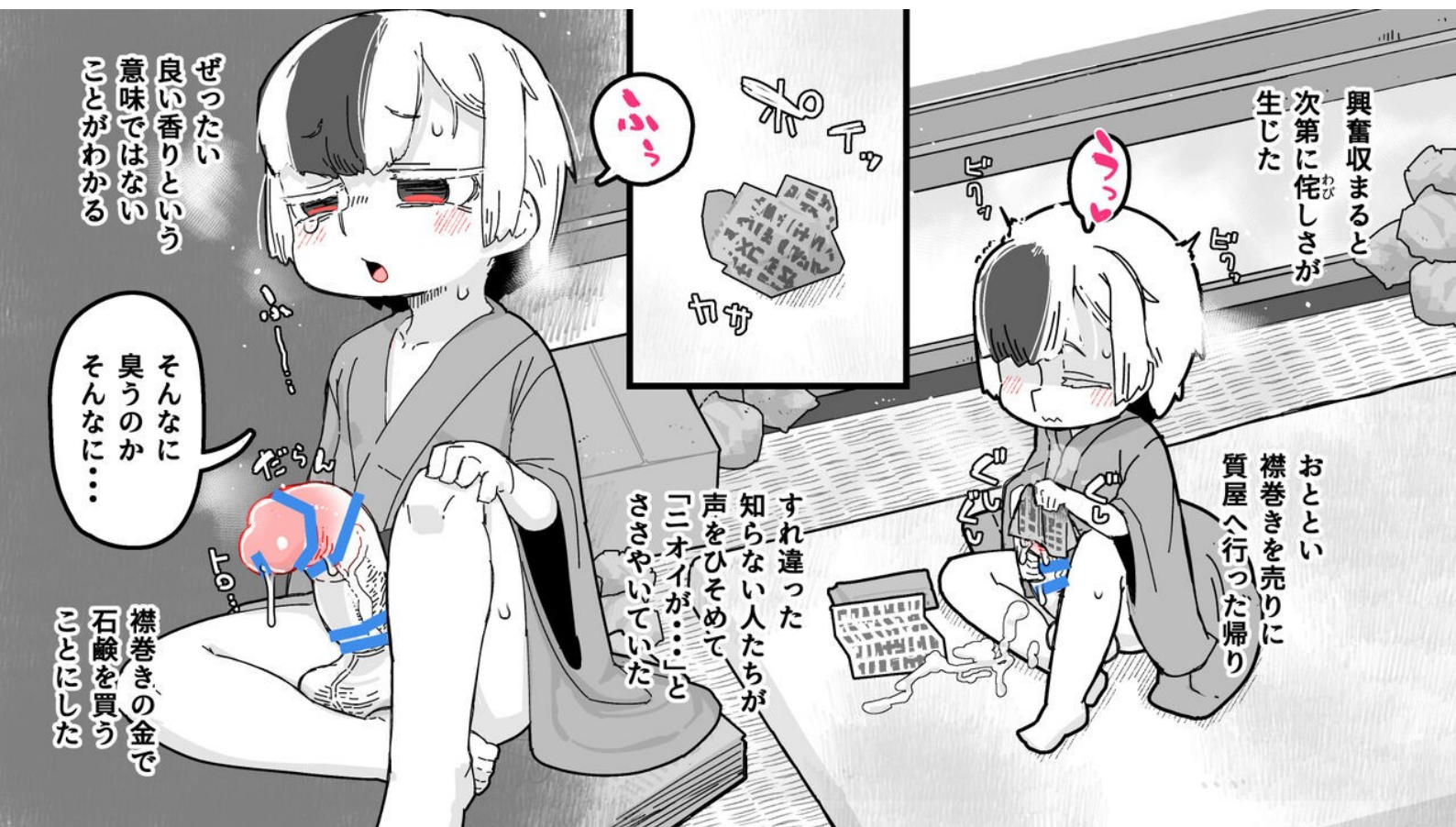
よりもよって
自分の妹に
たいして〜っ!!

この我儘チンポ!
色ボケ!遠慮なし!



背徳快樂のための
まともぶるという
自慰行為

自責すればするほど
罪の意識があるほど
よりチンポが熱くなった



午前中
雨が軽く振っている

その日の部屋の空気は
使用済みのちりがみを
鍋で煮詰めたように
濃いものだった

「あにさま
おげんきでしょうか
あの手紙をだしたあと
わたくしは
おかあさまの
代わりにオットメを
することになりました」

「おかあさまが
していた オットメ
たいへんですが
がんばっています」

手紙からは
部屋の空気にも
劣らない
オスとメスの
交じり合った
ニオイがした



わたくしの キツが
ぶるぶるって
フタさまのキンポさまに
こびつづけるのです

イキます きもちよくて
マンコが イキます
ぶるぶるふるえ

こわい きもちいい
イキます イキ続け
いくのがとまりません
いつまでたっても

まいにちを キンポから
フタさまがだされる
せいえきが
めりつづけて イキます

いっばいだされると
あたまがふわふわって
いきもちになります

ひ

んむゝ
んむゝ♡

いっしょうけんめい　なめていると
わたくしが　この家にうまれて
きたりゆう　これだったんだって
マンコで　マンコがそう思うのです

♡ あろ♡
♡ あろ♡
♡ ちゅ♡
♡ ちゅ♡

[illegible]

!!
!!
!!

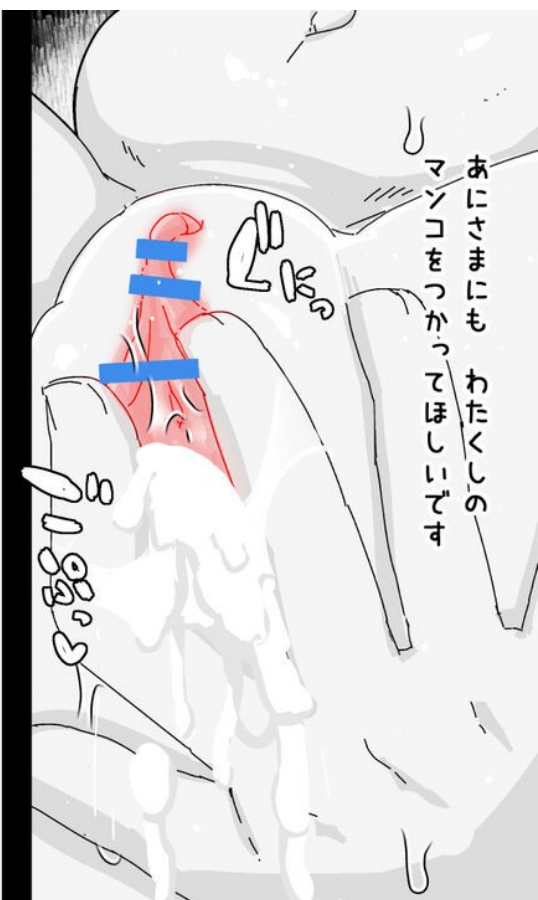
100%

まいにちずっと
いちにちじゅう

く"ちやくちやに
千ンポでマンコを
く"ちやくちや
く"ちやくちや

れろ、れろ、

「ごめんなさい、さいきん
じょうに、かんがらなくて
がんばって、おてがみ、かき
ますね。」

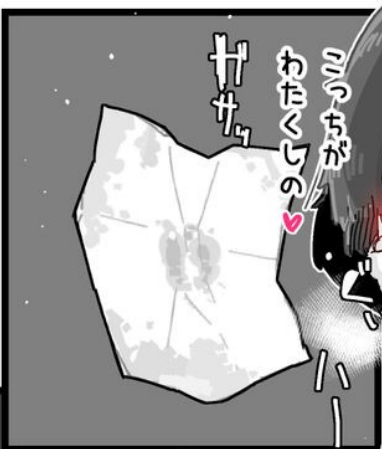


おにさまにも わたくしの
マンコをつかってほしいです



フタさまもおかあさまも
よくのびるいいマンコだって
ほめてくれました♡♡

気持ちいい
穴だって♡

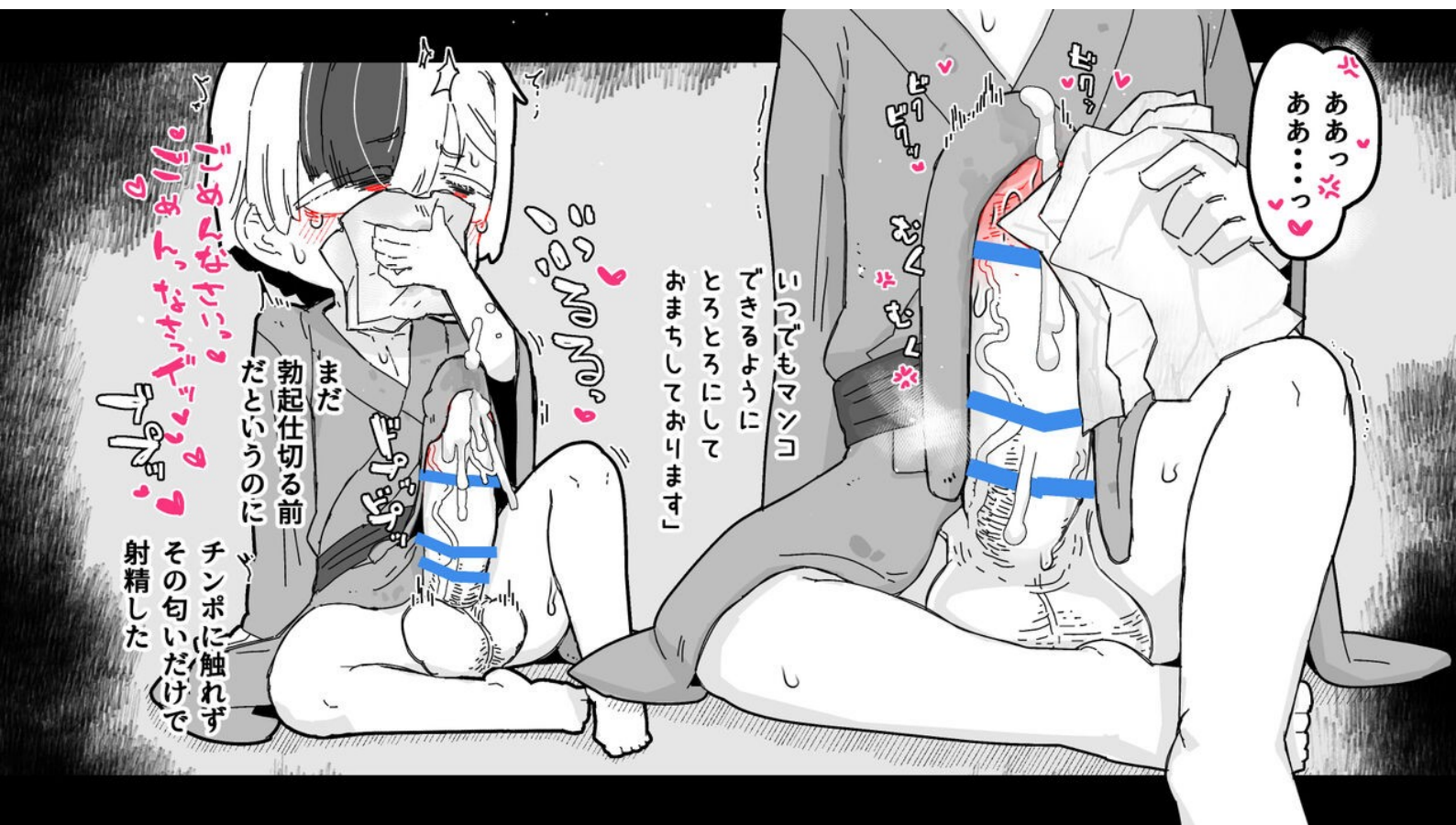


こつちが
わたくしの
マンコ

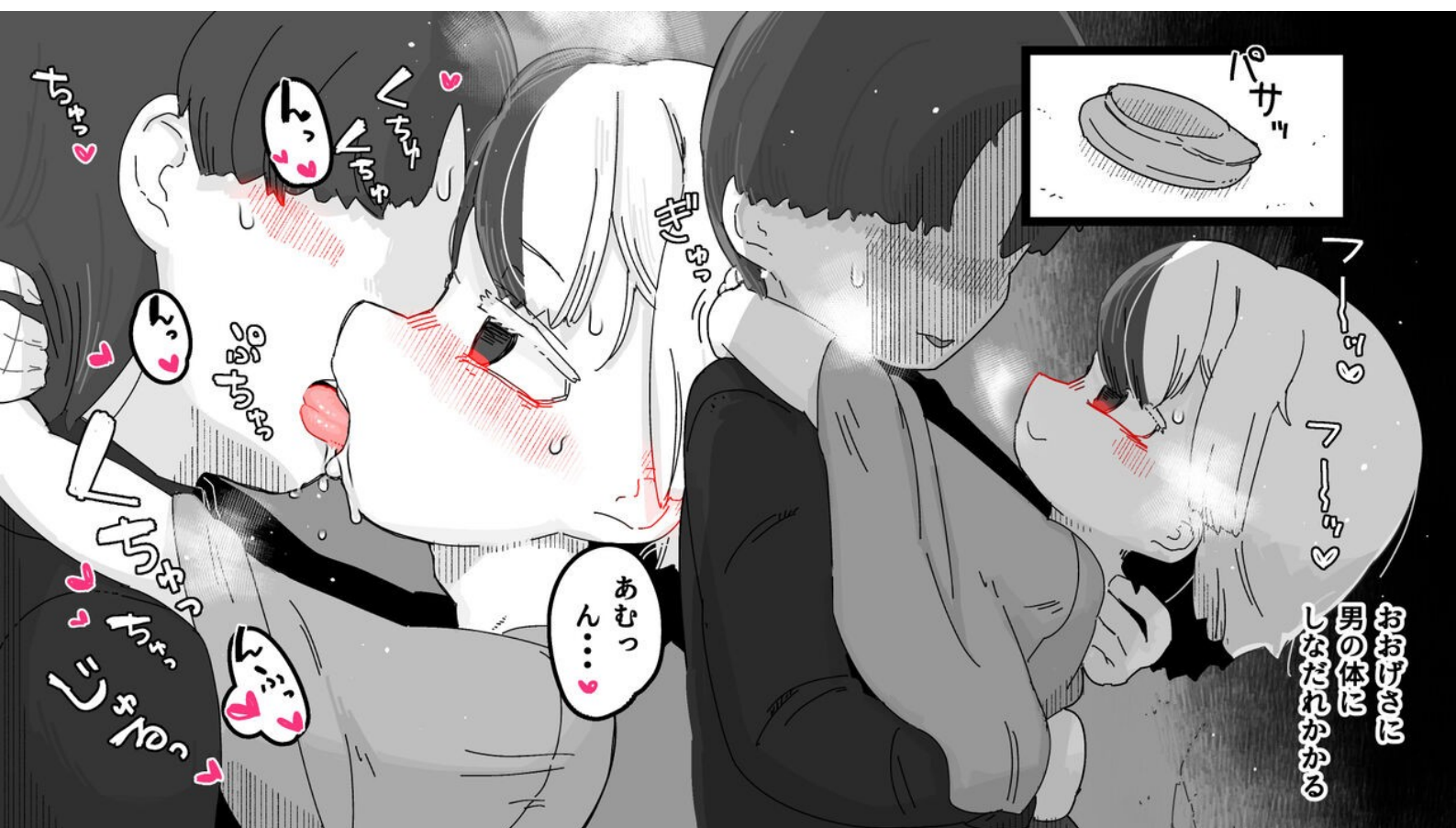


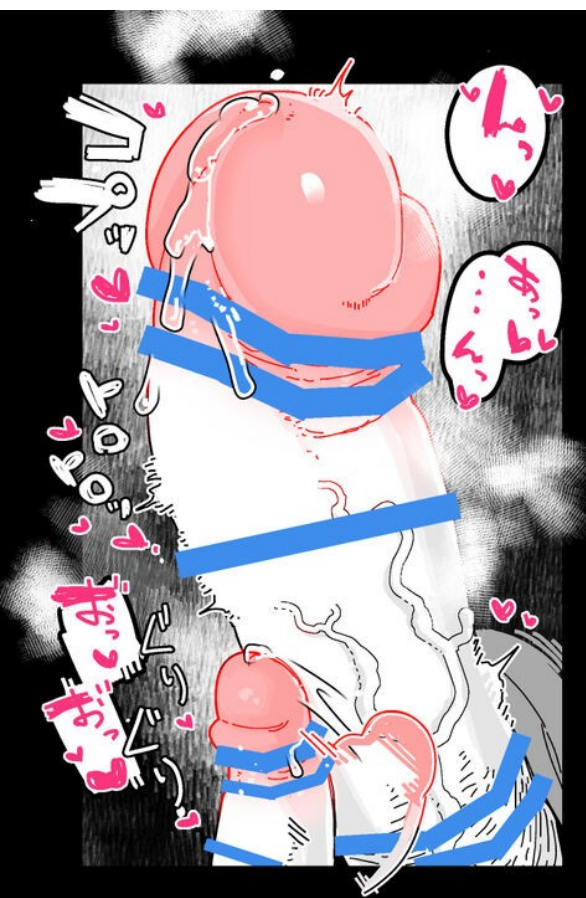
2まい目は
おかあさま♡

卑猥な形の染みから
とても濃いニオイがする

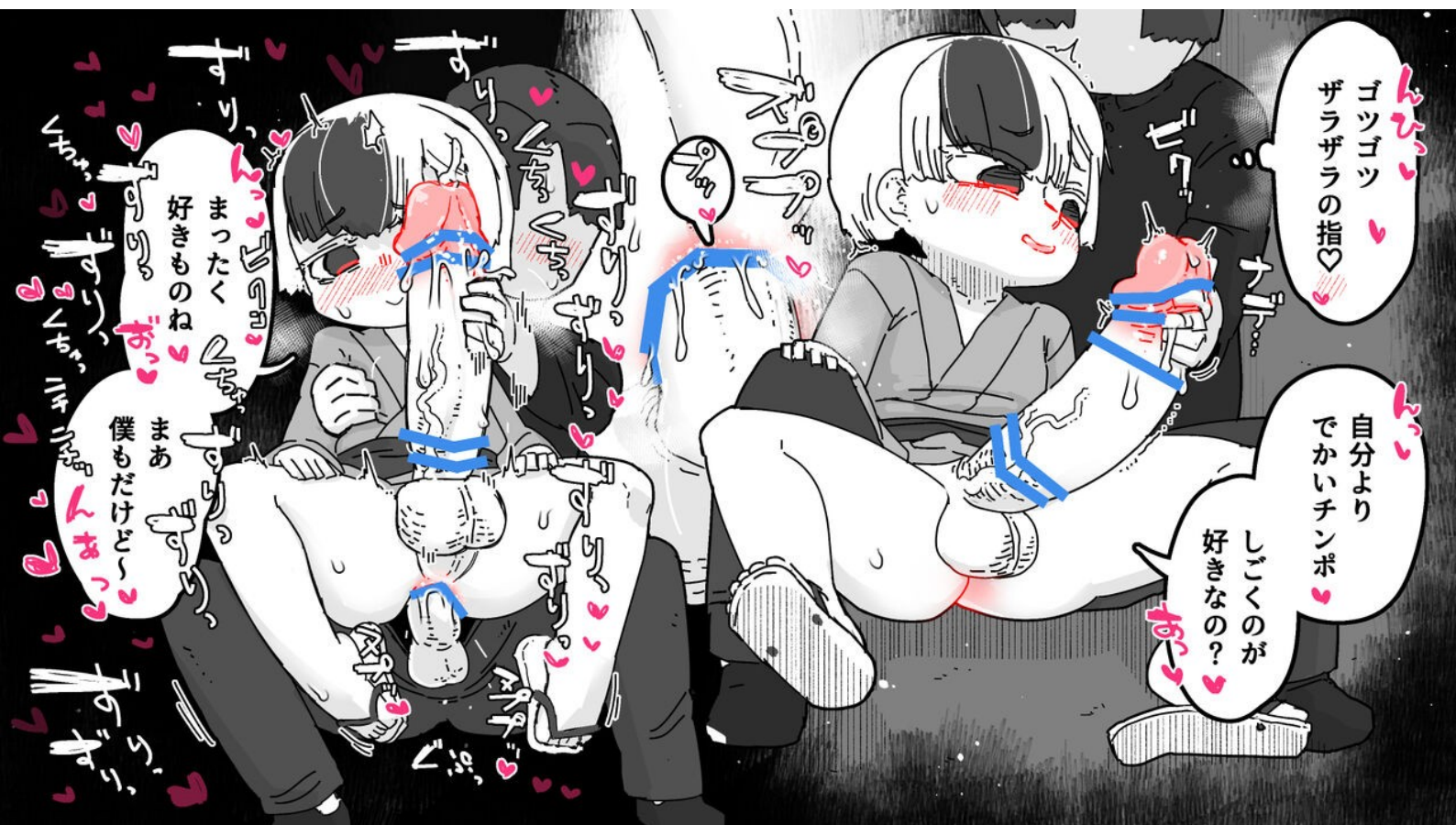












ゴッゴッ
ザラザラの指♡

自分より
でかいチンポ♡

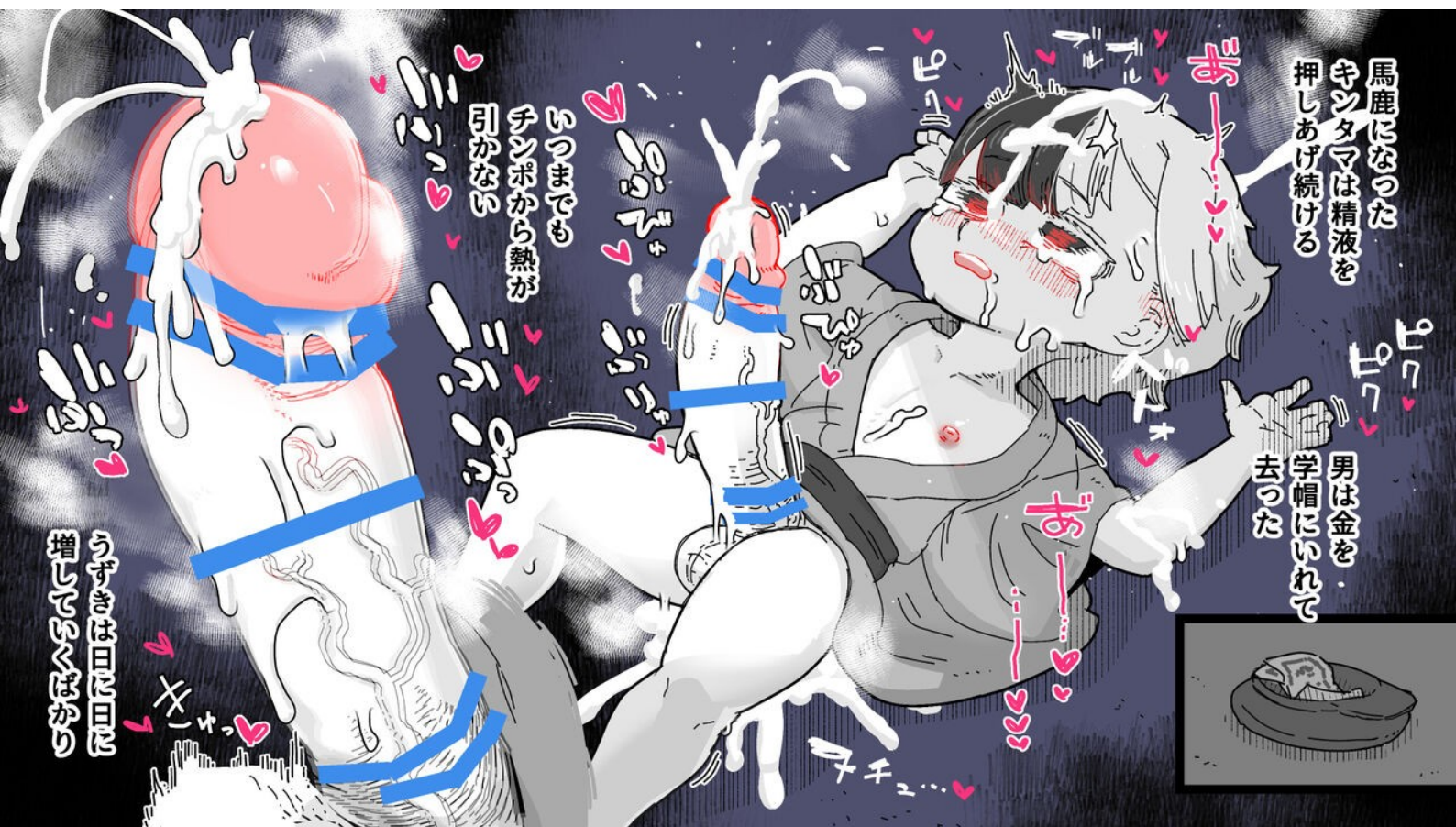
しごくのが
好きなの？

まったく
好きものね♡

まあ
僕もだけど♡







馬鹿になった
キンタマは精液を
押しあげ続ける

男は金を
学帽にいれて
去った

いつまでも
チンポから熱が
引かない

うすきはほどほどに
増えつづけてる





うずきが
抑えられなくなって
からというもの

自室に
こもることが
増えた

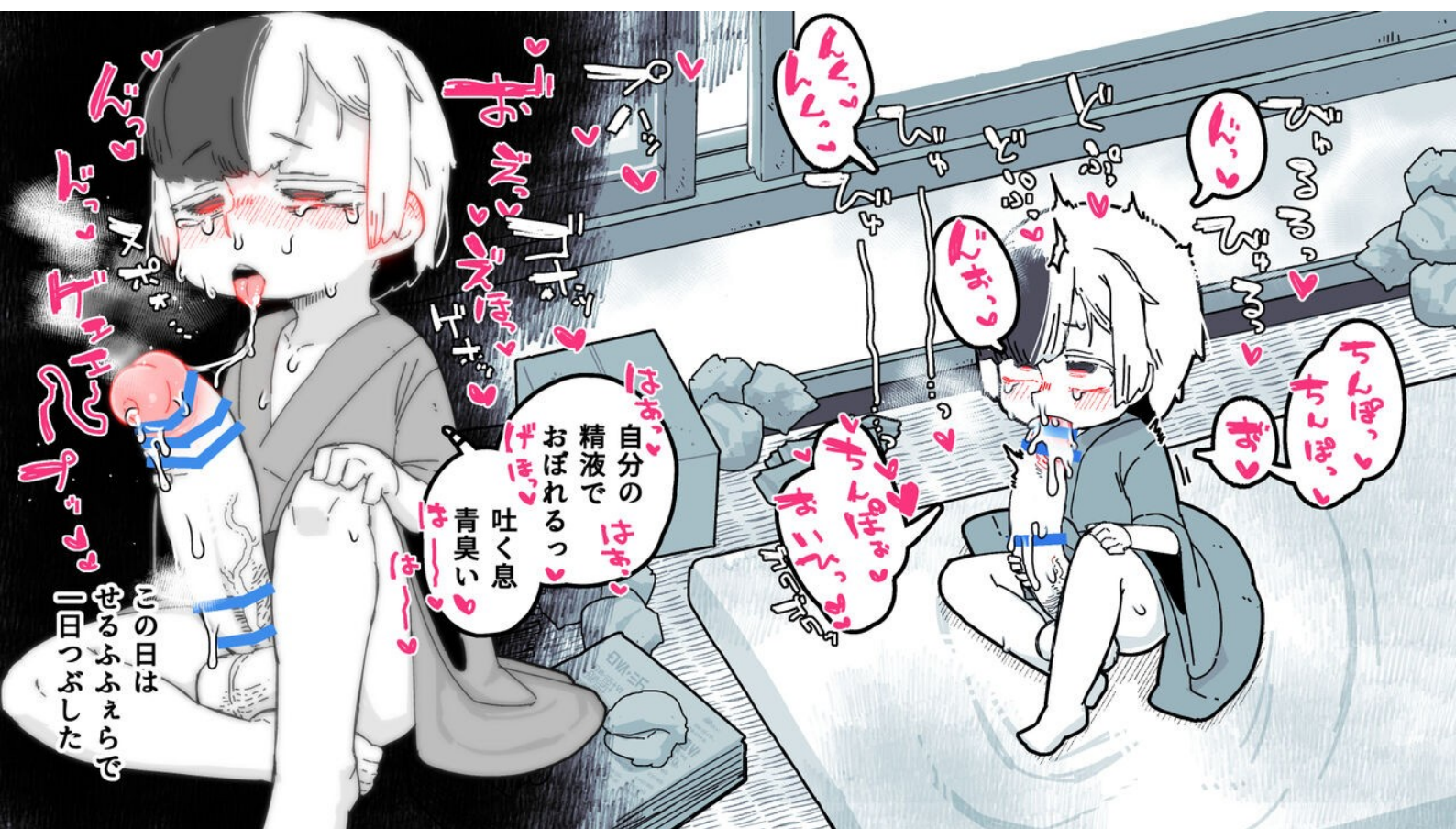
自分の舌はどれほど
気持ちがいいだろう

どんな味が
するのだろう

塩っぱっ
厠の臭いっ

ただれた
日常







ほら♡チンポ
おつきくなりすぎて
足で挟めるんだよ♡

オニイサン
僕のデカチン
しっかりみて♡

みながら
チンポしていて♡

いっしょに
しこしこ♡

別の日
連れ込んだ
男と連れオナ

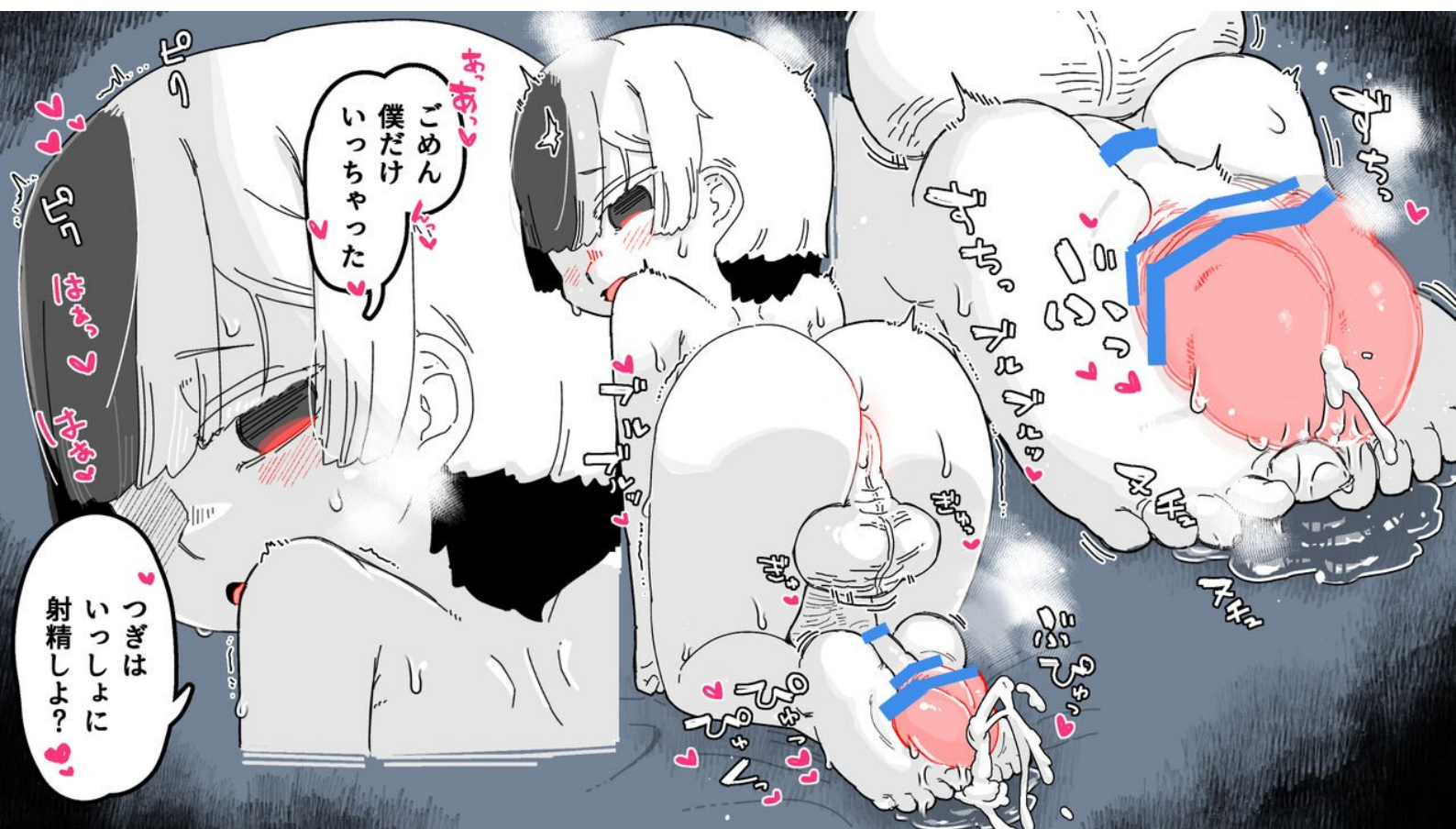
ズン♡
ズン♡
ズン♡

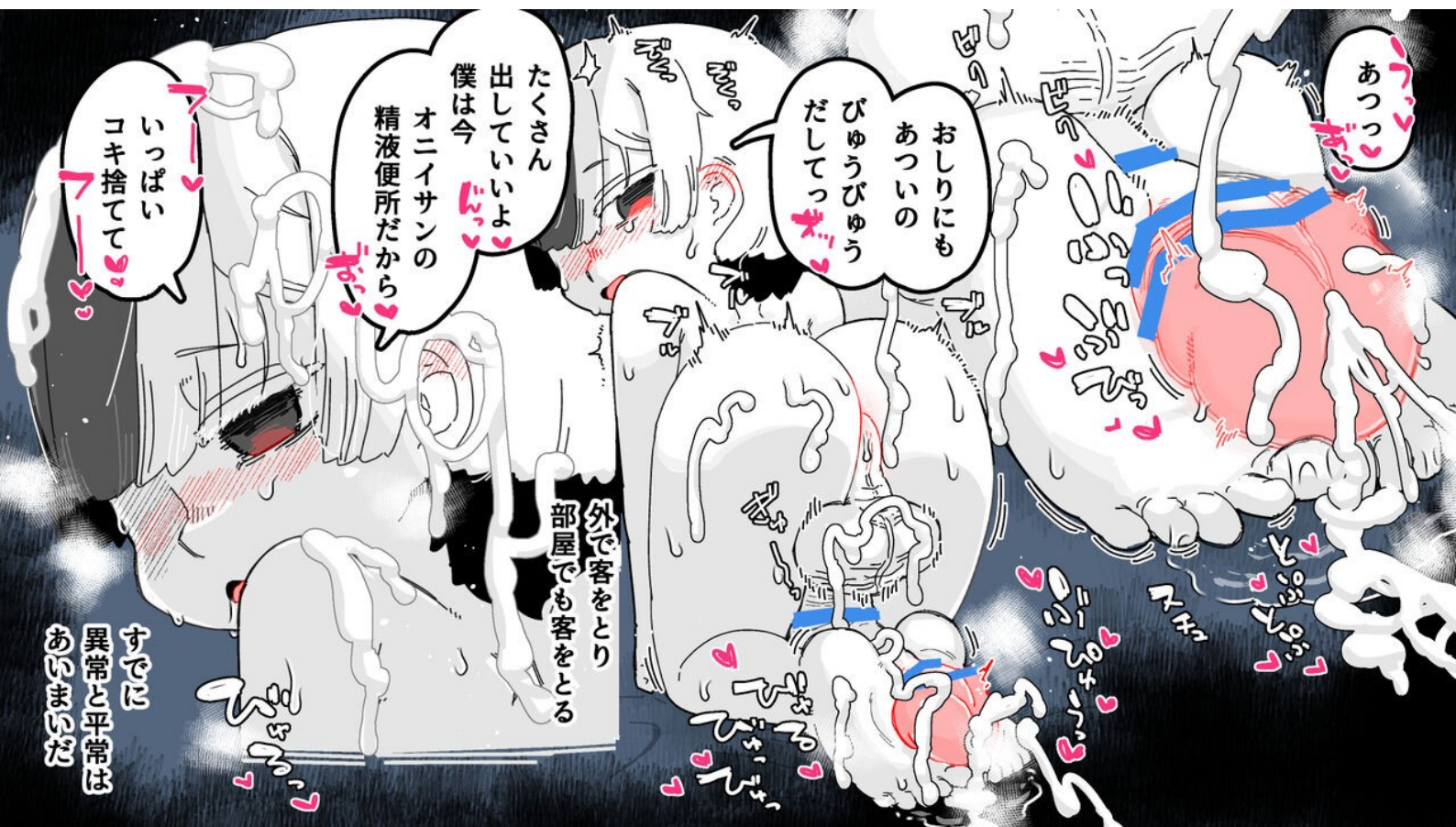
ズン♡
ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡
ズン♡





あつっ

おしりにも
あついの

びゅうびゅう
だしてっ

たくさん
出しているよ
僕は今

オニイサンの
精液便所だから

いっぱい
コキ捨てて

外で客をとり
部屋でも客をとる

すでに
異常と平常は
あいまいだ

3の手紙
生家周辺の住民から
僕に宛てたもの

家人が誰も
いなくなり
廃墟となっている

取り壊すので
家財道具などを
片付けてほしいと
手紙が届いた

いつの間にか
誰もいなくなつて
お手伝いの人も
家族もいない
抜け殻の家



人がいない？



そもそも
なんで勝手に
取り壊しなんて



廊下 いや
家の外まで
聞こえるような
はしたない声が

おのゝ
響らびるのだ

チンポで
ほらなれて
える汁垂らして

そんなわけが
無いだろう

熱でうっか
なっている

人としての
モラルを捨てた
獣のような交尾

2人とも
心からチンポに
こびるような
マンコ女になって

そんなわけ
ない そんな

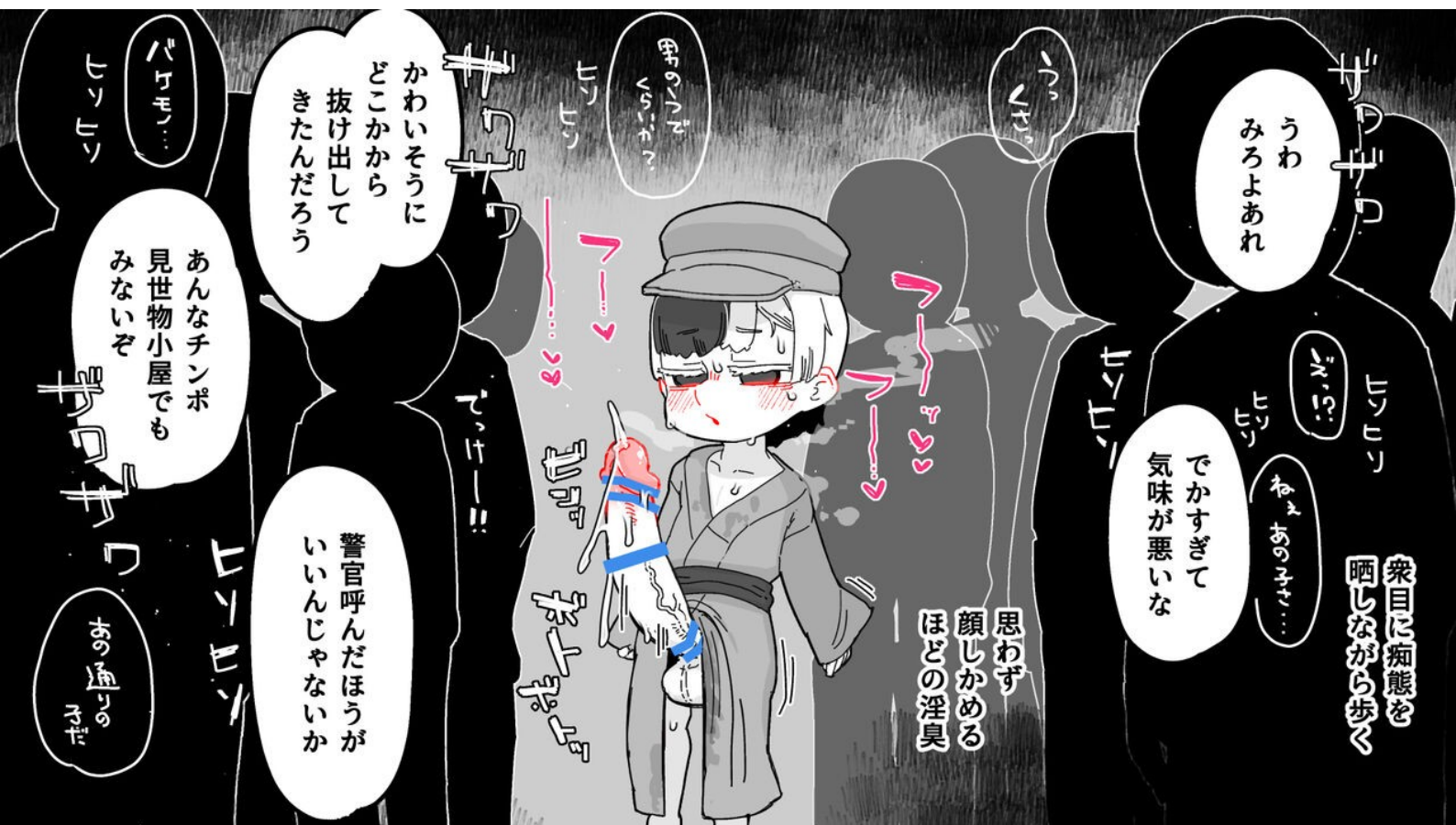
実家を出て1年
僕の体は
どうしようもなら
うずきに苛まれる
ようになった

ズリッ

頭は常に
微熱を帯びて



平常思考のそれとは
ほど遠い様子をなす



衆目に痴態を
晒しながら歩く

うわ
みろよあれ

でかすぎて
気味が悪いな

思わず
顔しかめる
ほどの淫臭

お前の
くちか?

コン
コン

可愛そうに
どこから
抜け出して
きたんだろう

警官呼んだほうが
いいんじゃないか

コンコン

バケモン...

あんなチンポ
見世物小屋でも
みないぞ

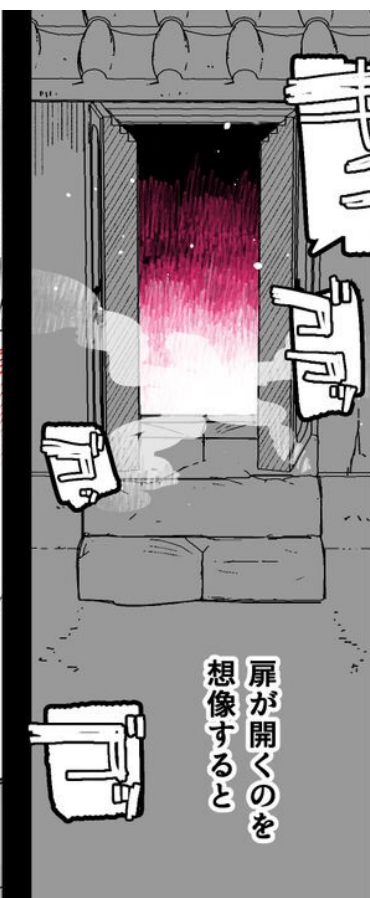
コンコン

その
お前の
お尻

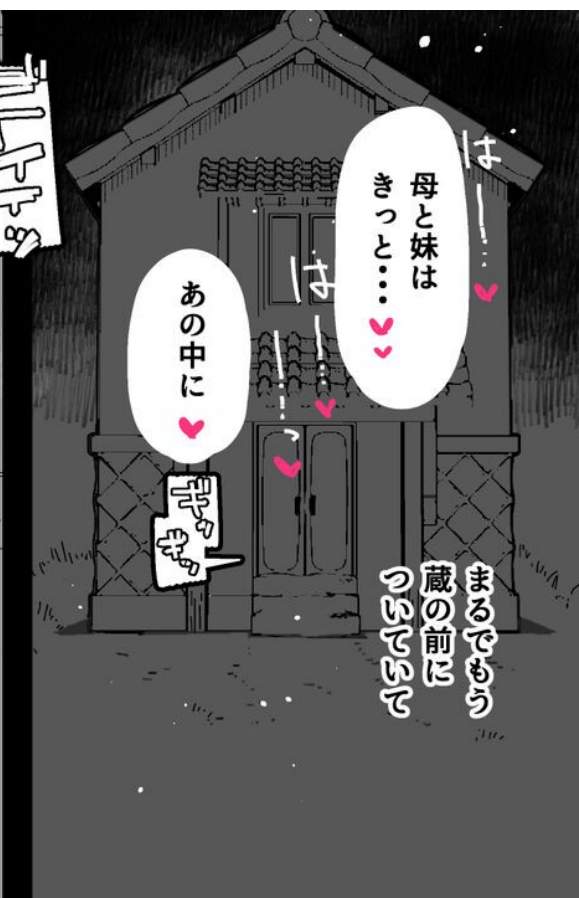


生々しい淫臭が
香ってくる気がした

あーっ



扉が開くのを
想像すると



母と妹は
きつと...

はー！

あの中に

まるでもう
蔵の前に
ついでで

あの中で

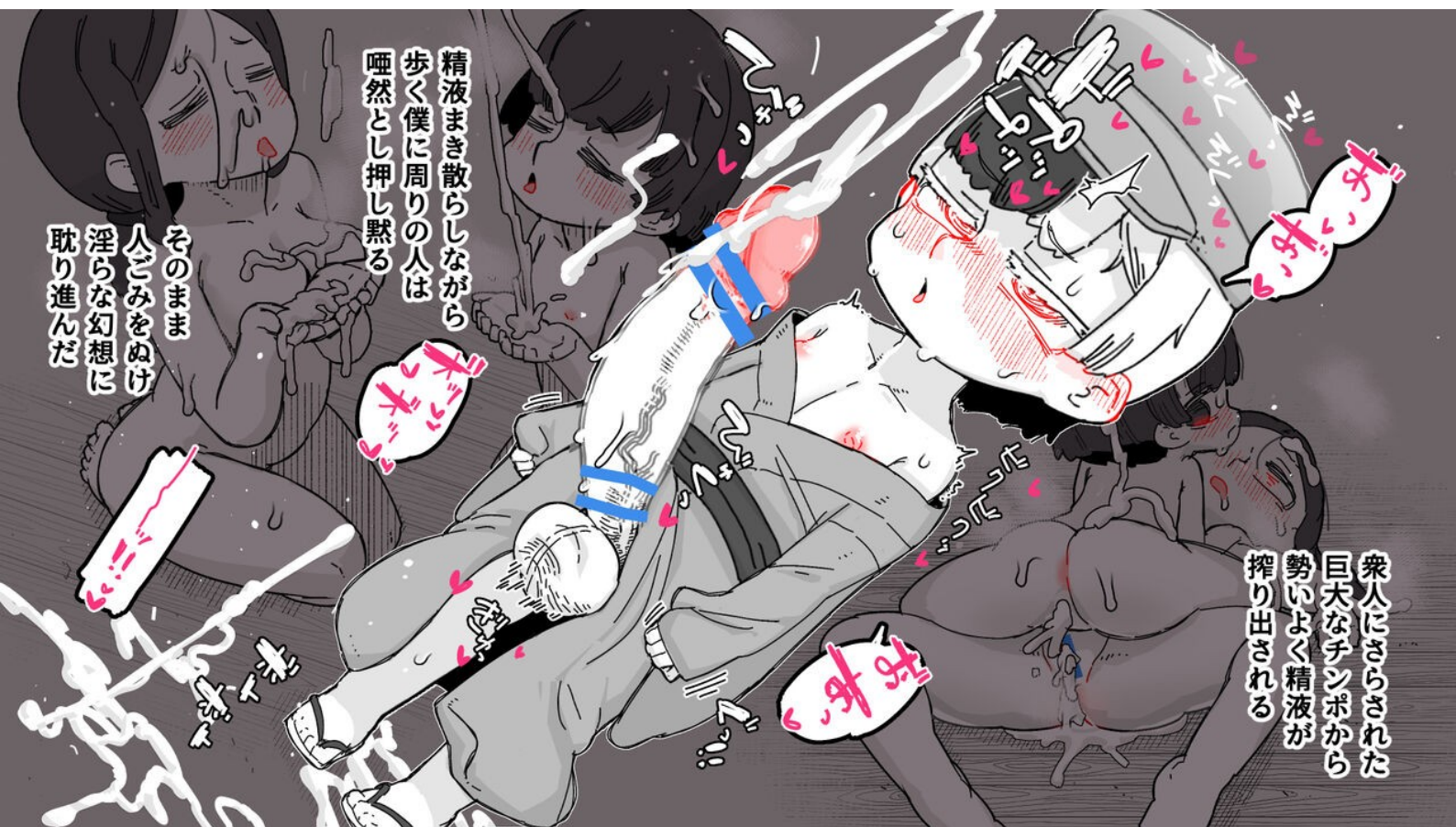
あんなに

昼も夜も
まぐわっている

あの中で

あんなに

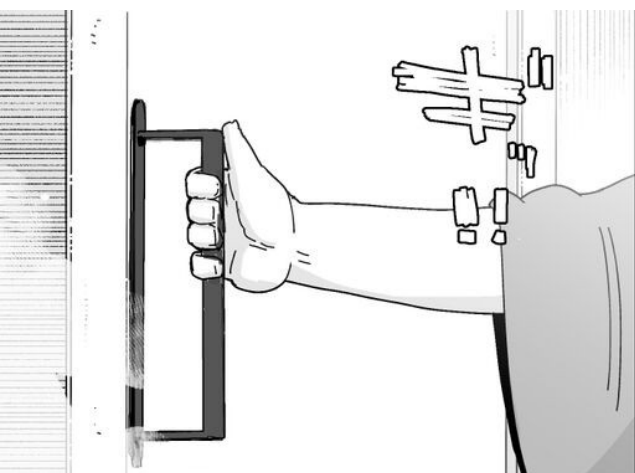
昼も夜も
まぐわっている



精液まき散らしながら
歩く僕に周りの人は
哑然とし押し黙る

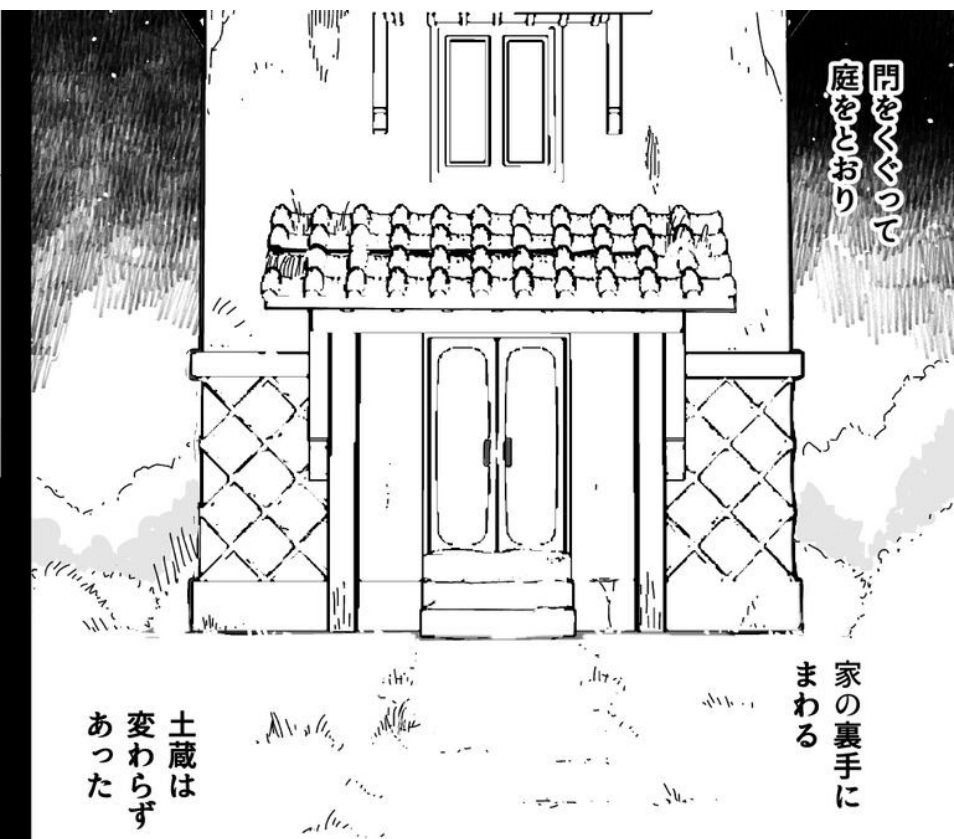
そのまま
人ごみをぬけ
淫らな幻想に
耽り進んだ

衆人にさらされた
巨大なチンポから
勢いよく精液が
搾り出される



ここまで歩いた
記憶は無いが

扉の重みで
幻想でない
とわかる



門をくぐって
庭をとおる

家の裏手に
まわる

土蔵は
変わらず
あった



おかえりも
ただいまも無い

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

夢中で
えんげ
嚥下する

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

押し広げられた臓腑
首の骨がゴキゴキ軋む
ゴキゴキ

カチャカチャ

喉をきゆうきゆう
しめてチンポ奉仕

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ

カチャカチャ



父の手記

俺は、俺の家の持つ
資産と子種のために
婿入りさせられたのだ

みじめな弱い

みじかいチンポの俺を
妻が愛するはずもない

三人目の子は

髪が黒い

どうやら俺の子だ

代々

こうしてきたのだから

落ちぶれてゆくのを
ツギハギしてしのぐ

死に体の家系

その俾まじい仕組みに
取り込まれてしまった

気づけば指も

動かせないほど

弱りはてて

陽光があたらない

便所臭い、蠅の音が

うるさい部屋に

押し込められて

なんて

俾まじい一族

最初に生まれた子は
白髪で気色の悪いほど
でかいチンポがついてた

俺の子で
あろうはずがない

あの蔵にいる
化け物と妻の

いずれ
家を継ぐ立場に
なるだろう
あの白髪頭に
外の世界のことを
言ってきかせた

うまくすれば
家をでていく
かもしれない

こんな血筋は
とぎれればいい
とぎれればいい

ハエの音が
うるさ
い

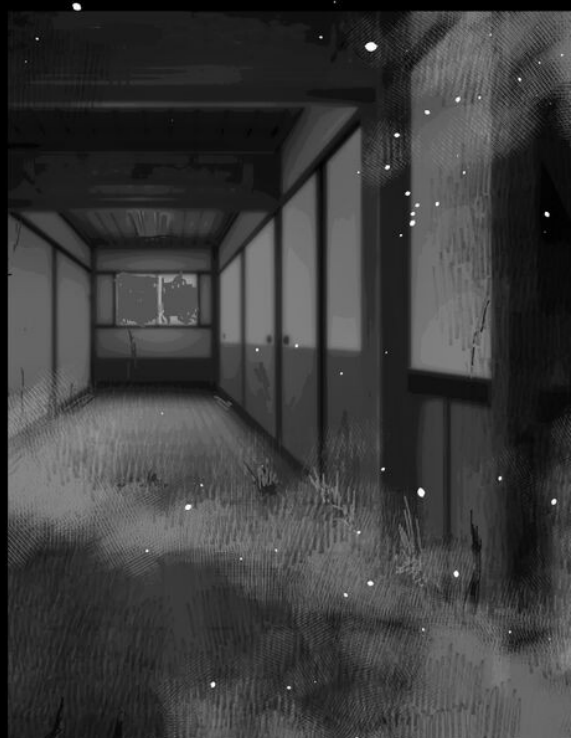
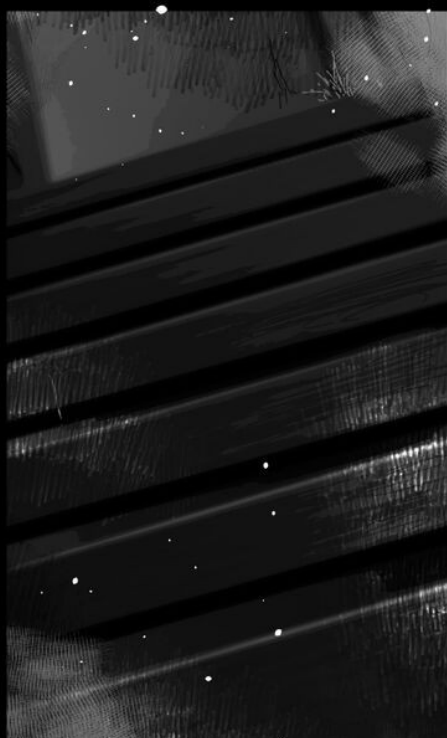
手記は誰にも読まれることは無く、
読者(あなた)のみが内容を知っています。



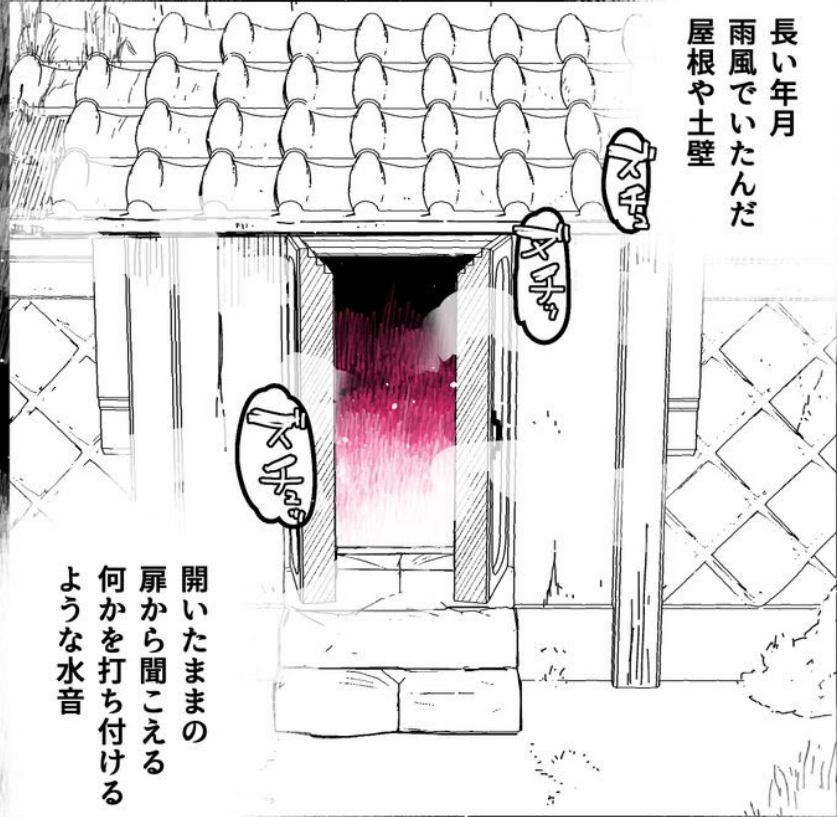
最後に仕えていた老婆が
屋敷を去るとき勝手に
家主の判子と
権利書を持ちだし、
金を借りるときの
抵当にしたようで、
家も土地もすでに
他人のものらしい

それでも田舎の、ボロの、
不気味な屋敷に
買い手はつかないまま
屋敷は数十年後も
佇しくぽつんと立っていた





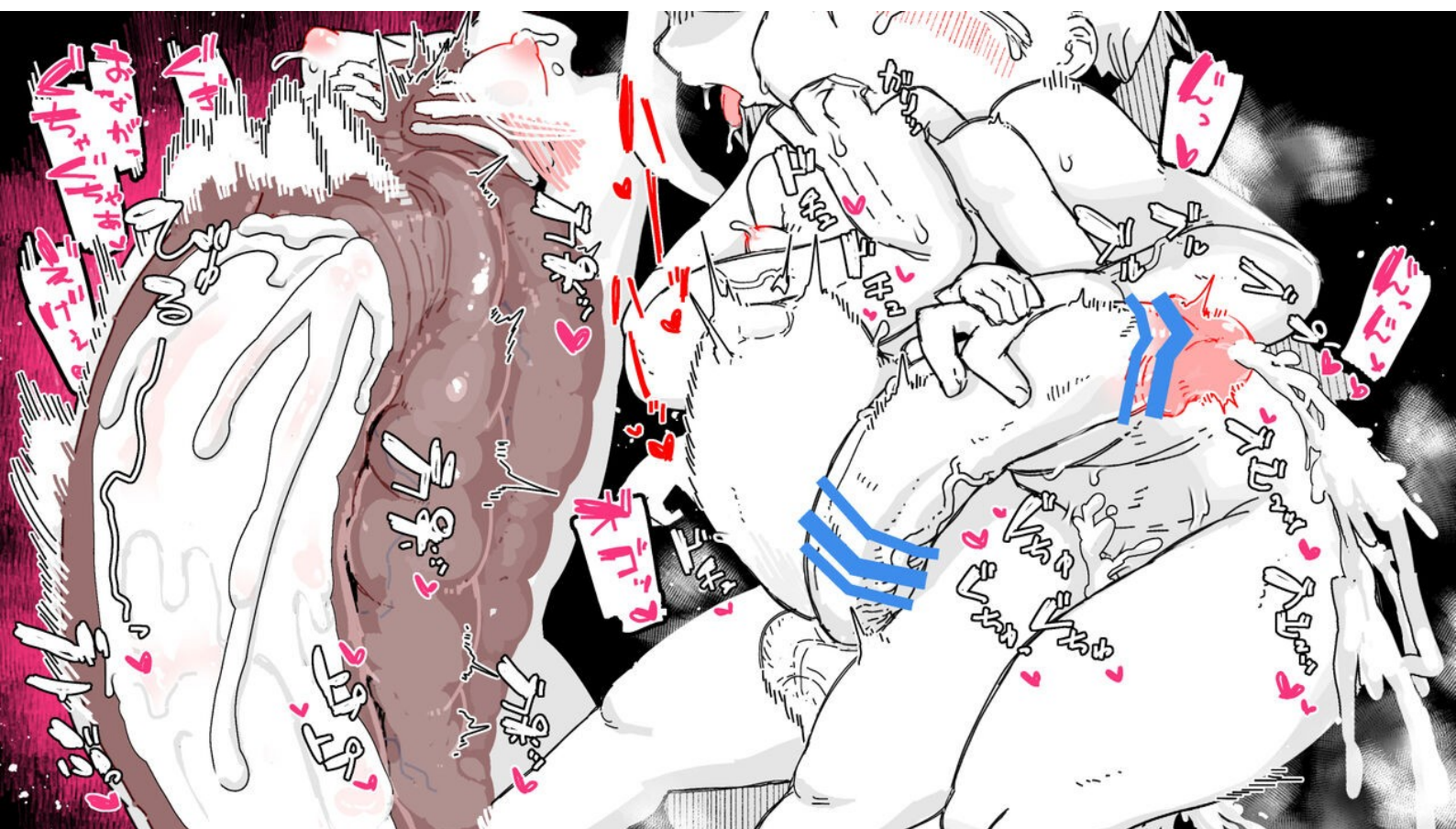
長い年月
雨風でいたんだ
屋根や土壁

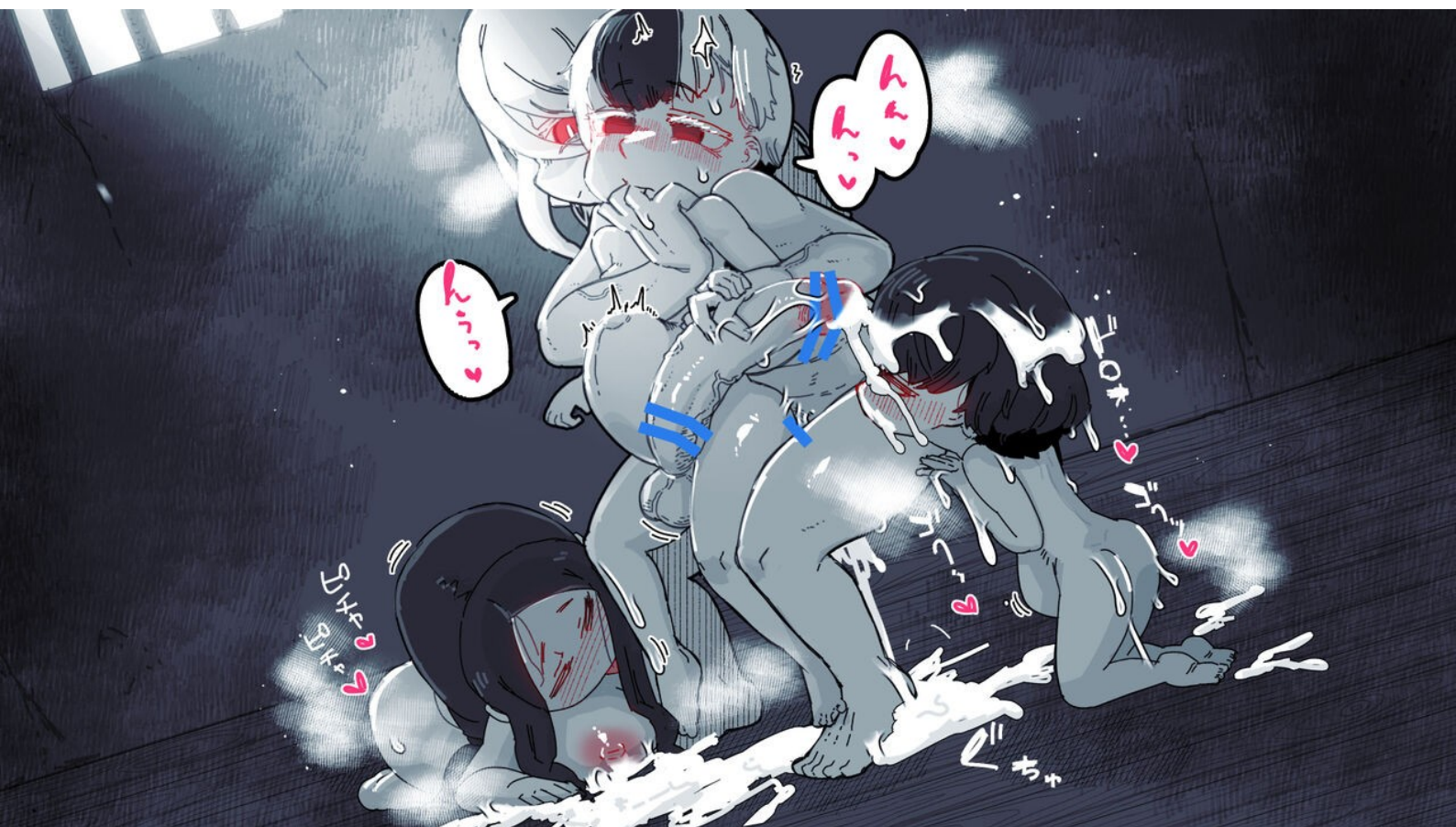


開いたままの
扉から聞こえる
何かを打ち付ける
ような水音











あなたが
急に家をでる
なんて言うから
心配したのよ

元服まで
母子の交わりは
禁じられて
いたのだけど

これなら
もっとはやくに

してあげて
よかったかしら

ねえ
あにさま

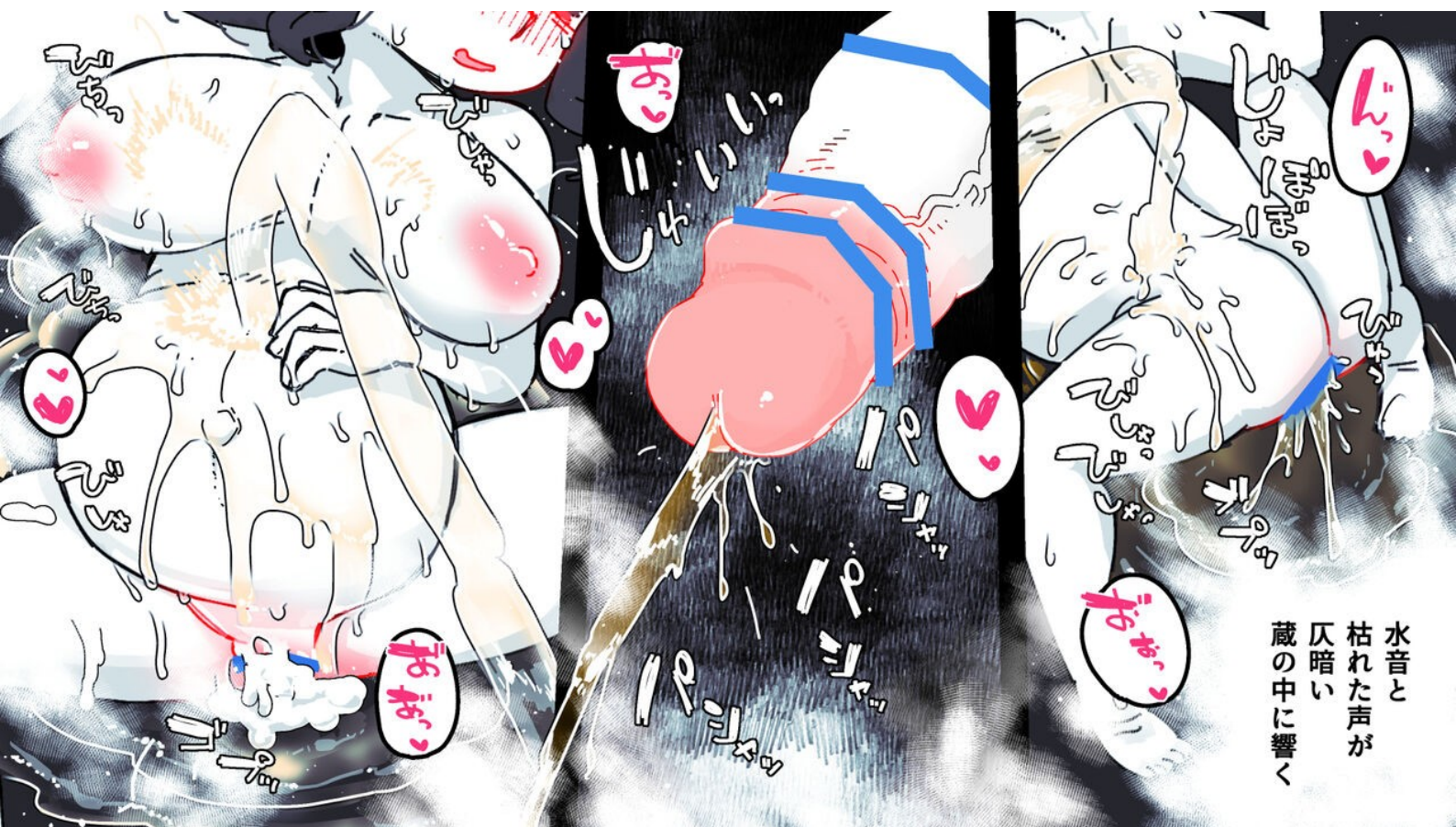
よく伸びるのよ
わたくしの穴

……っ

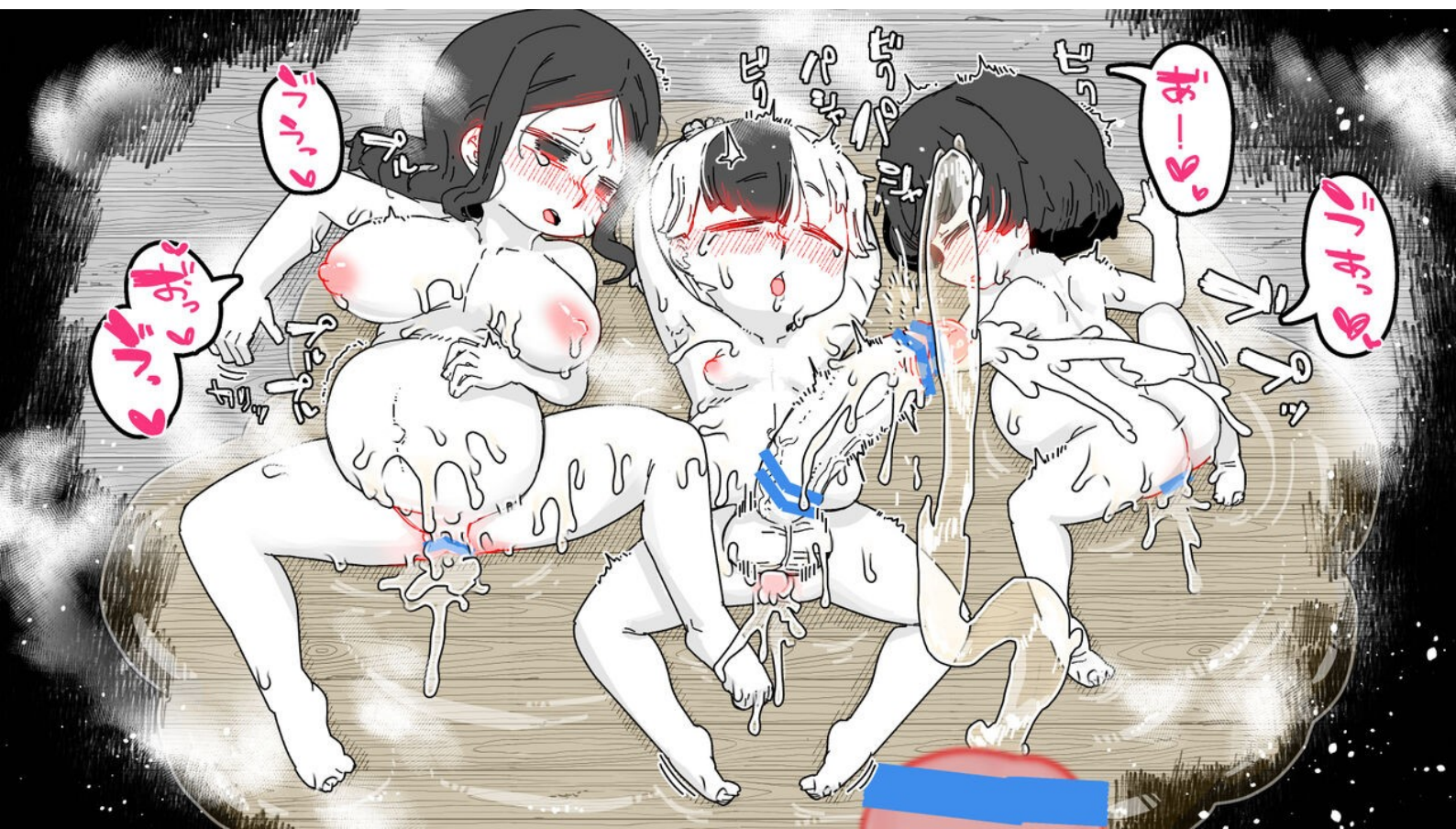








水音と
枯れた声が
仄暗い
蔵の中に響く





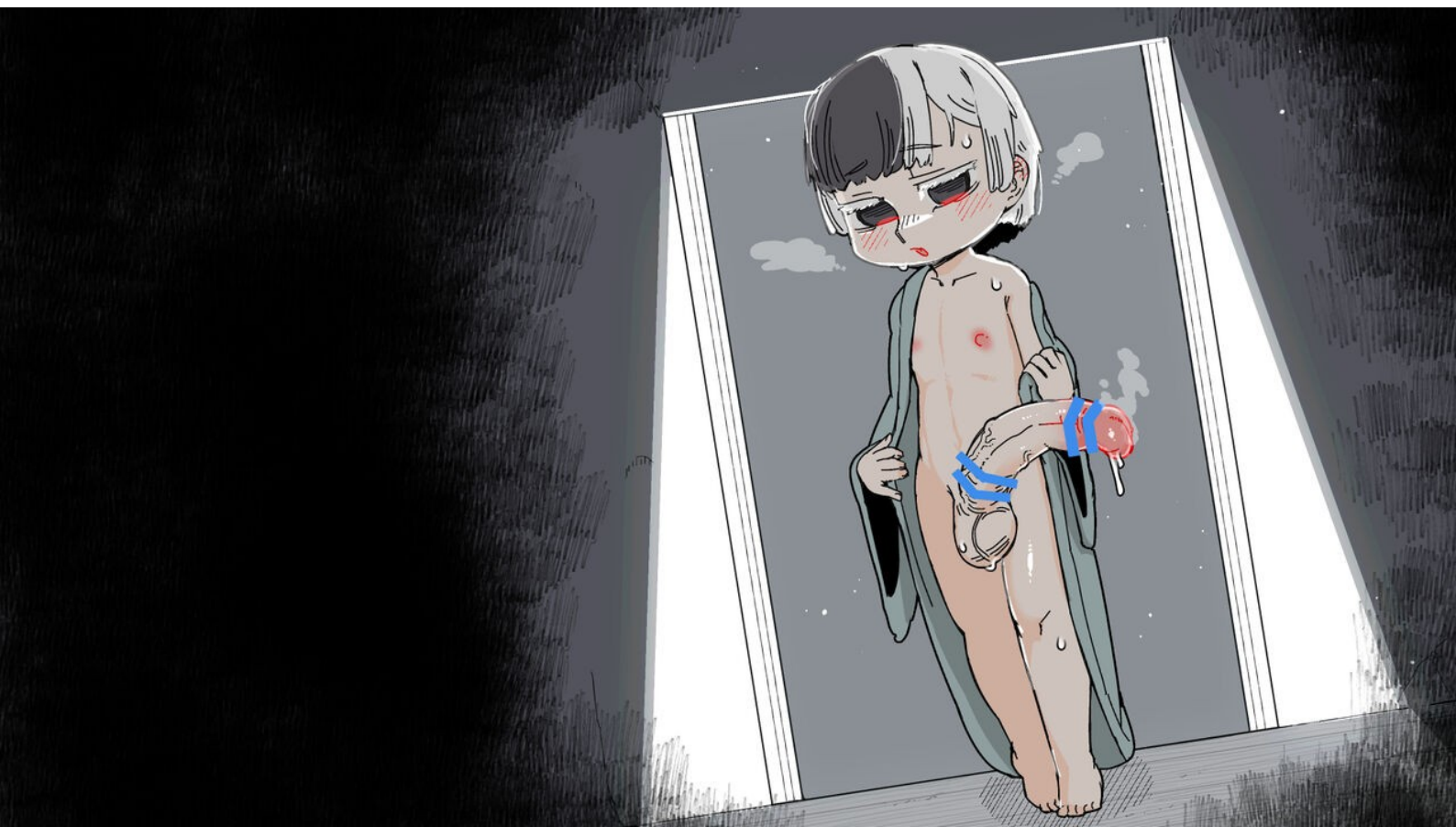
蔵の中は
すえた淫臭で
満ちていて

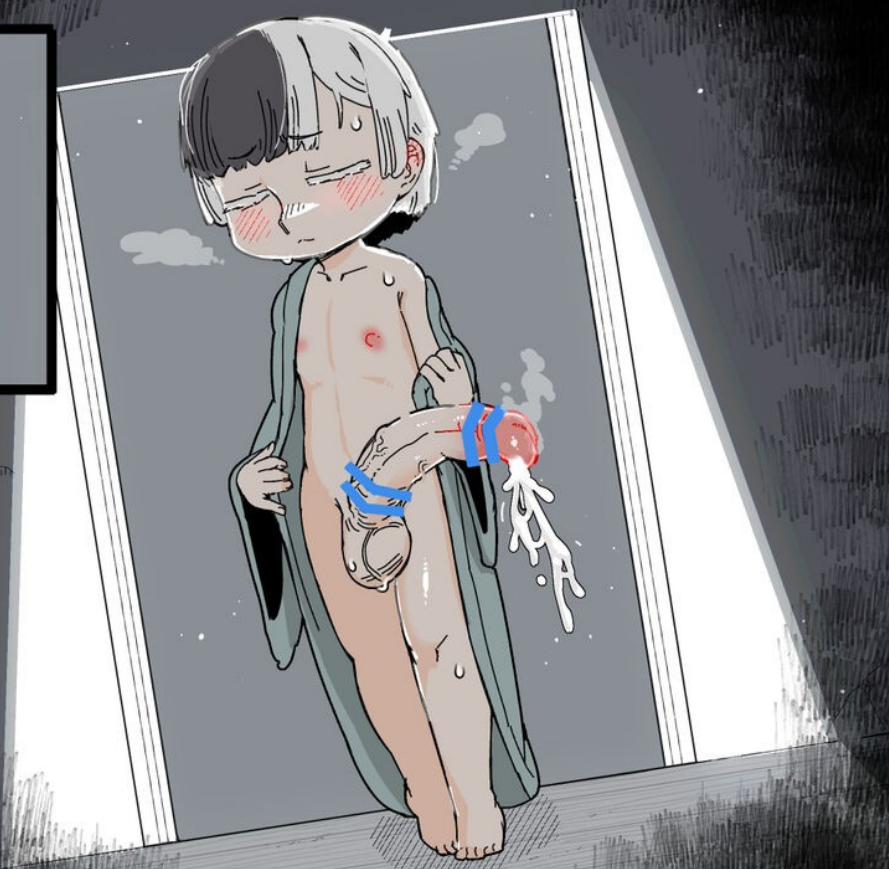
もや
霏がかかるほど
ニオイが濃い

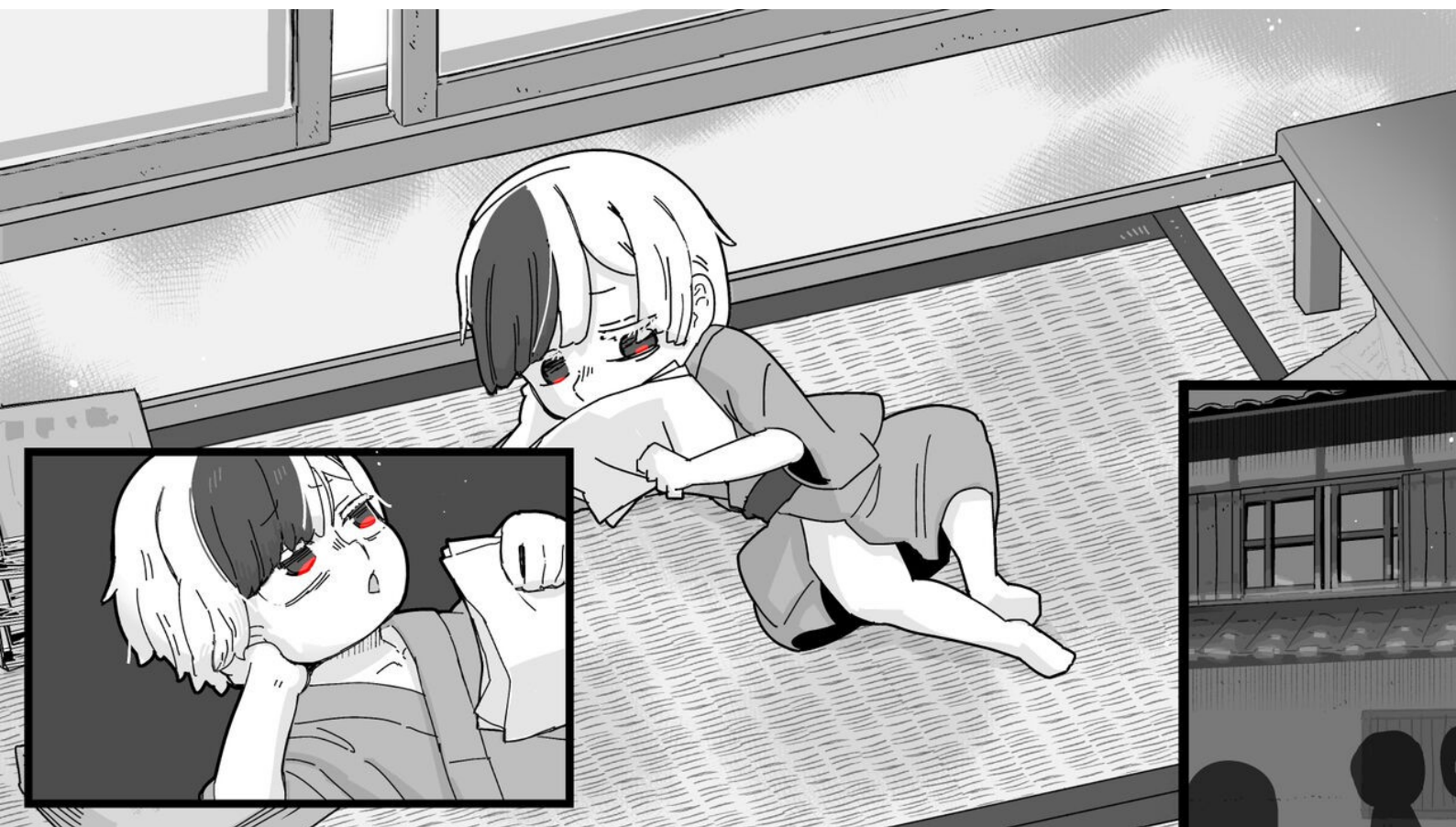
ああ
なんてニオイ
なんだ...

そう思いつつ
僕は深く息を
吸いこんだ

おわり









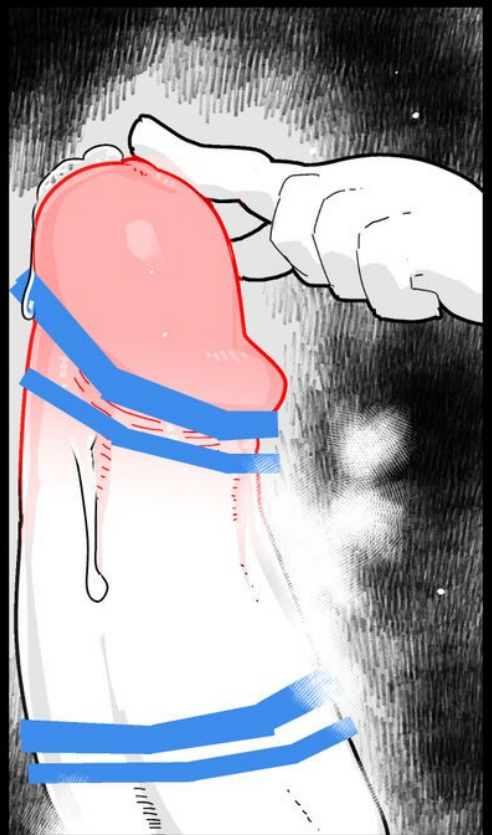
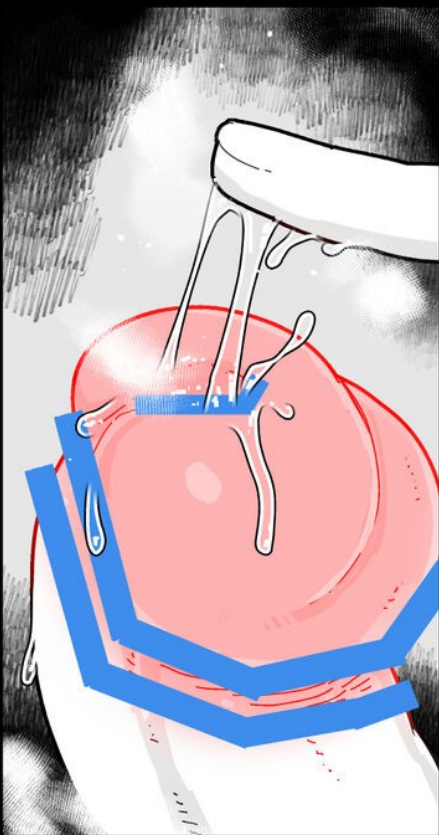


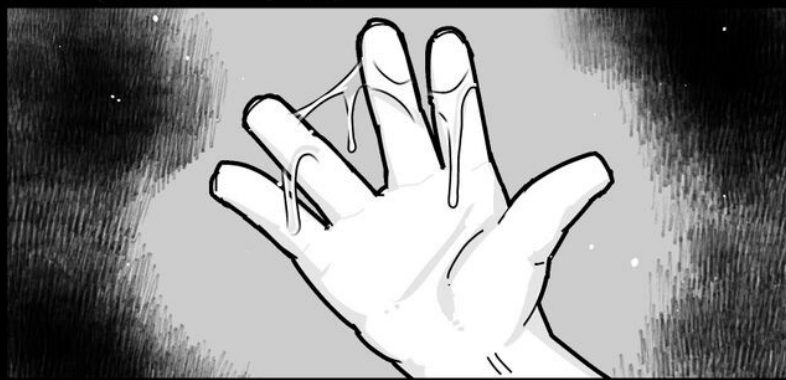
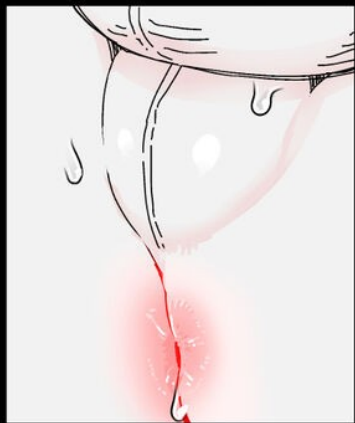
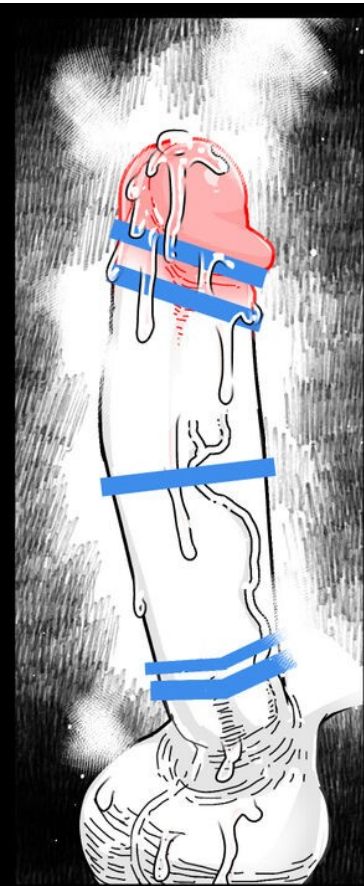




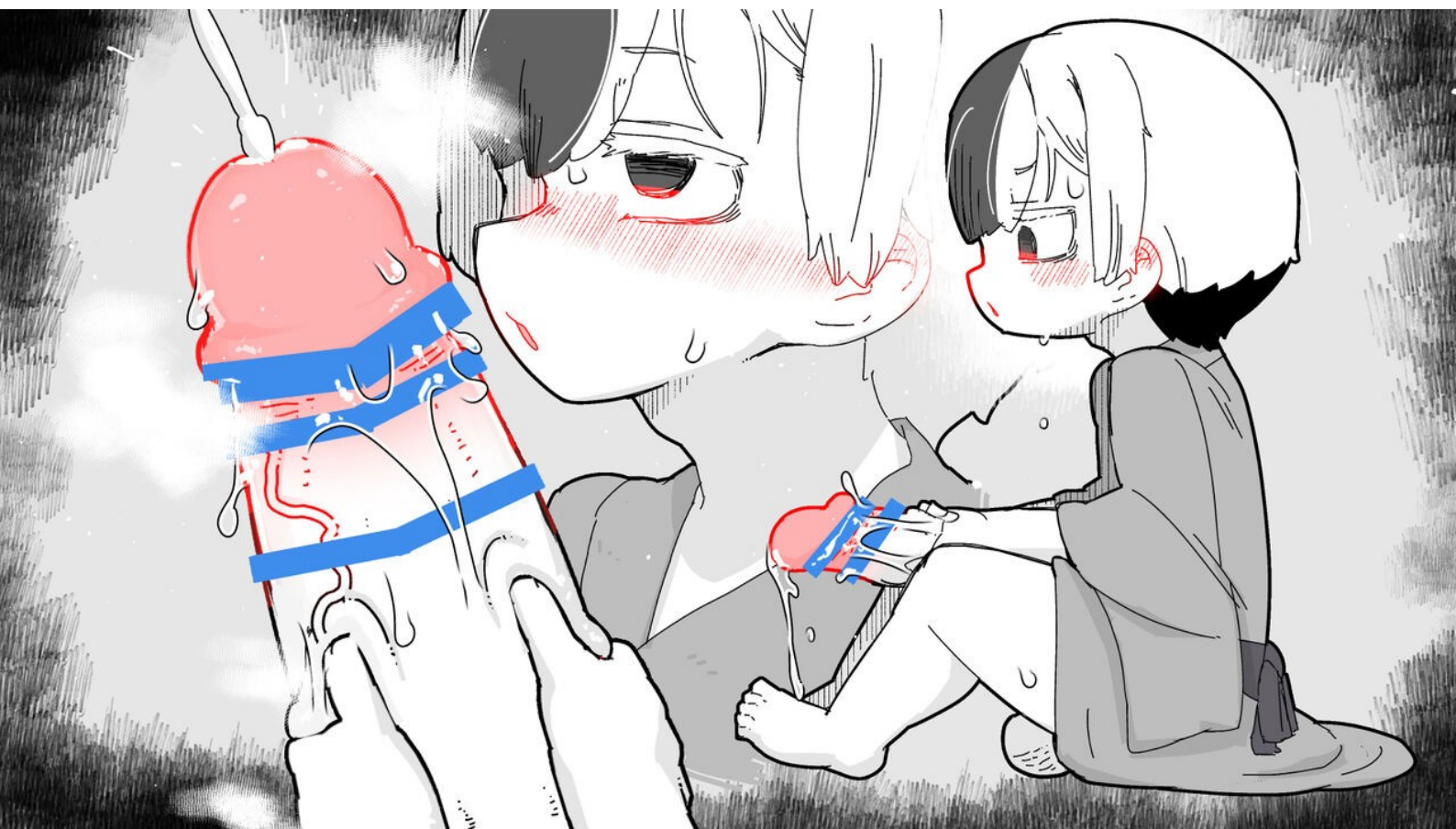




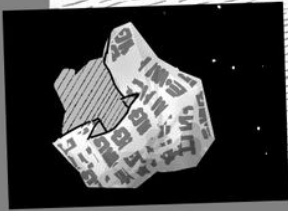




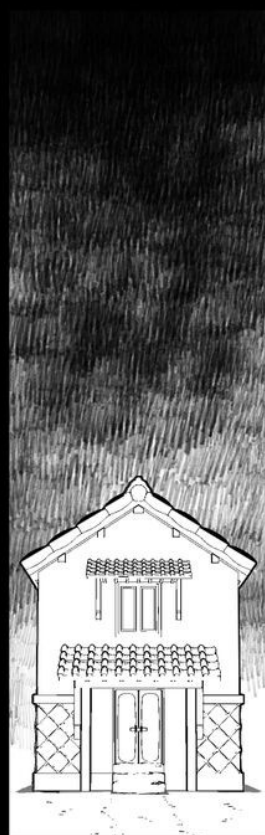
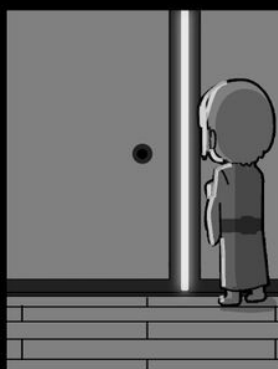
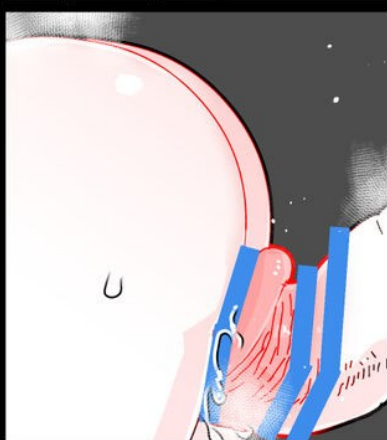
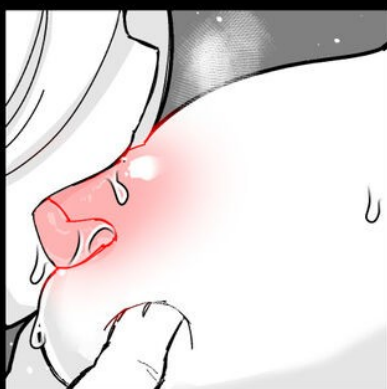
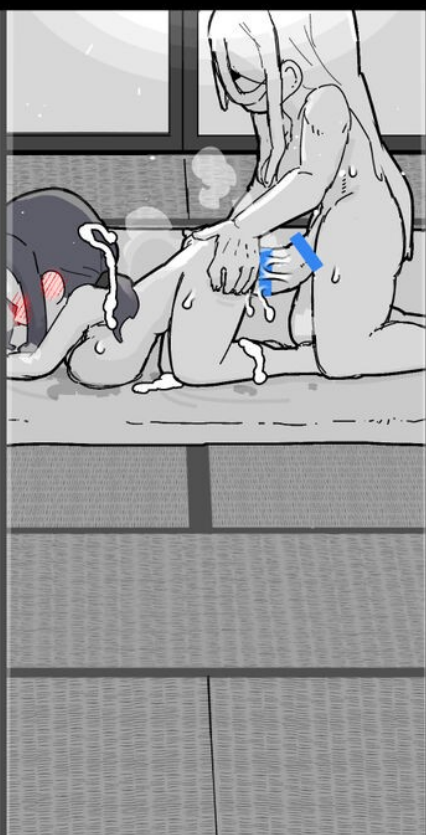








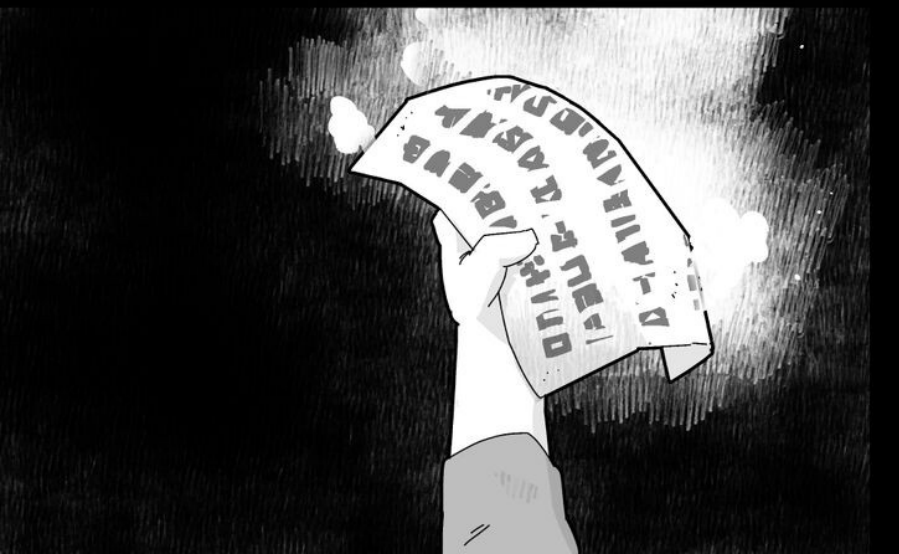








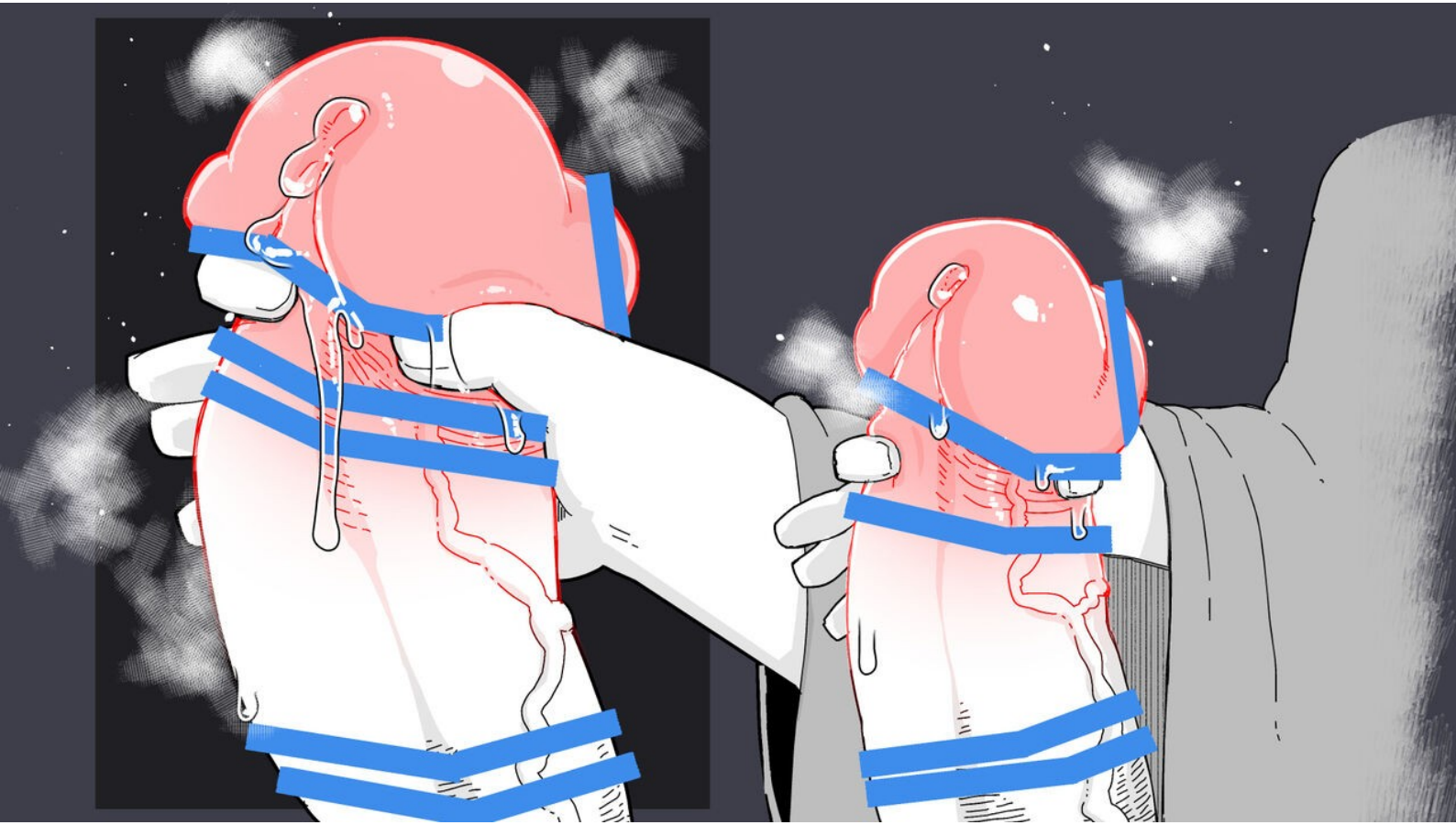








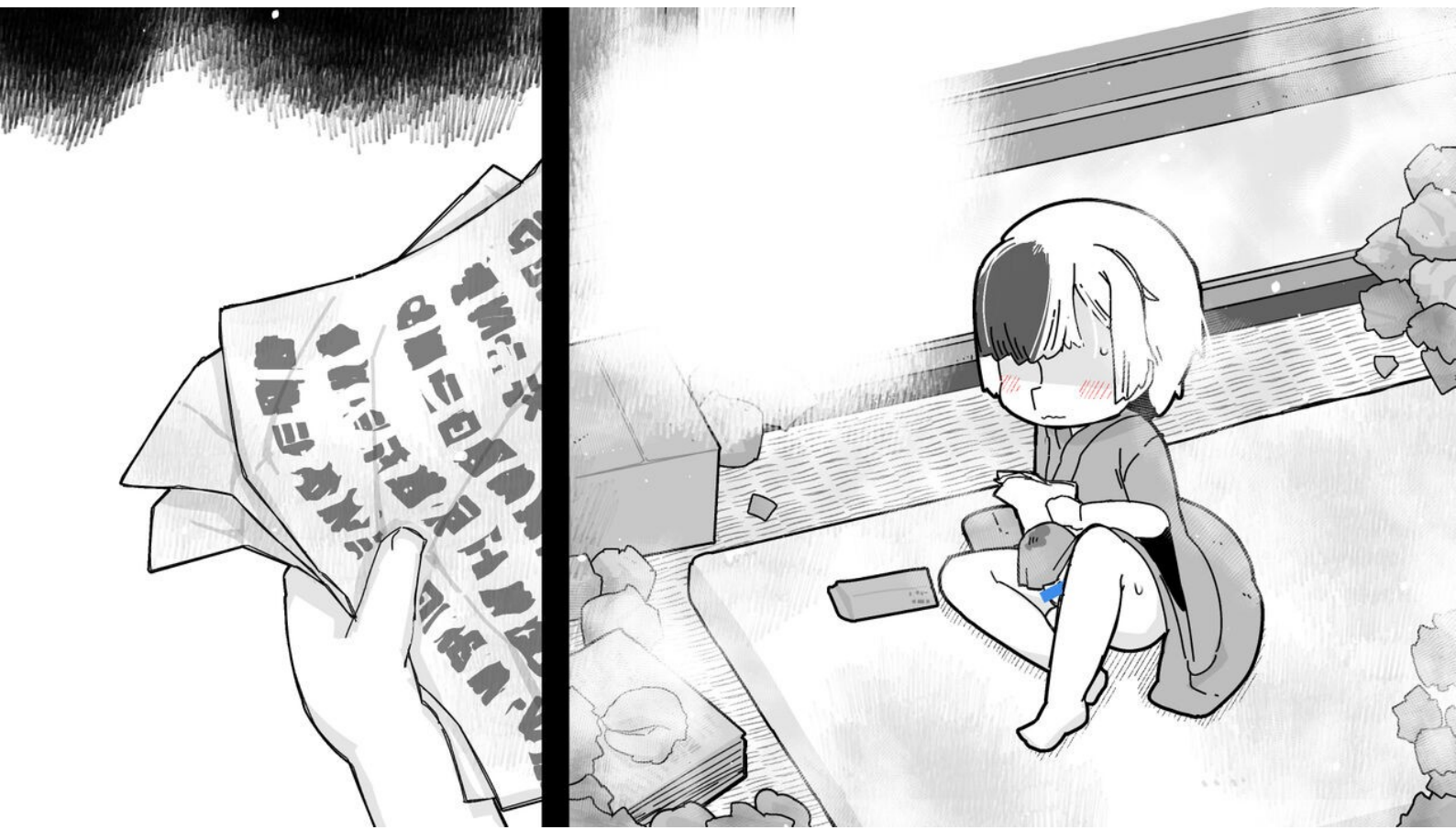


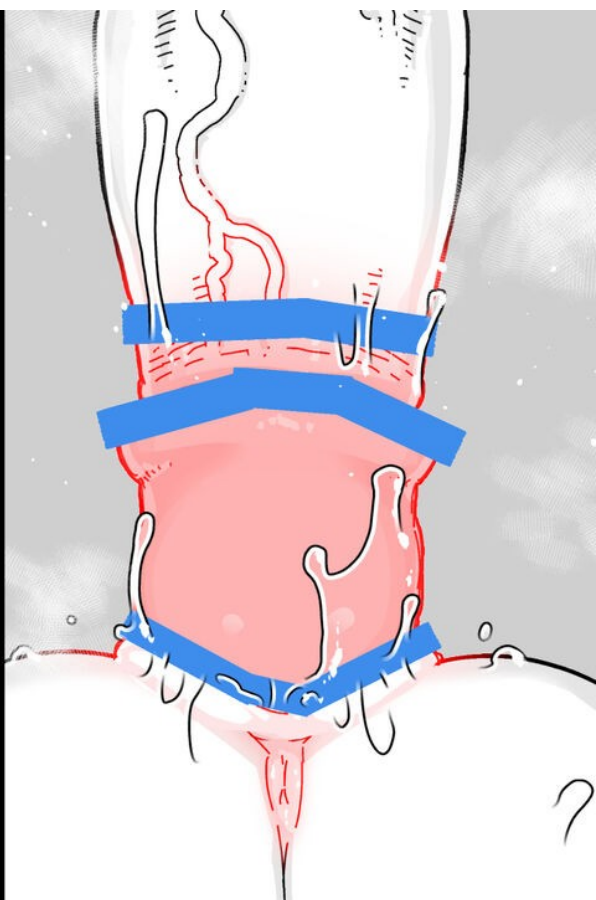






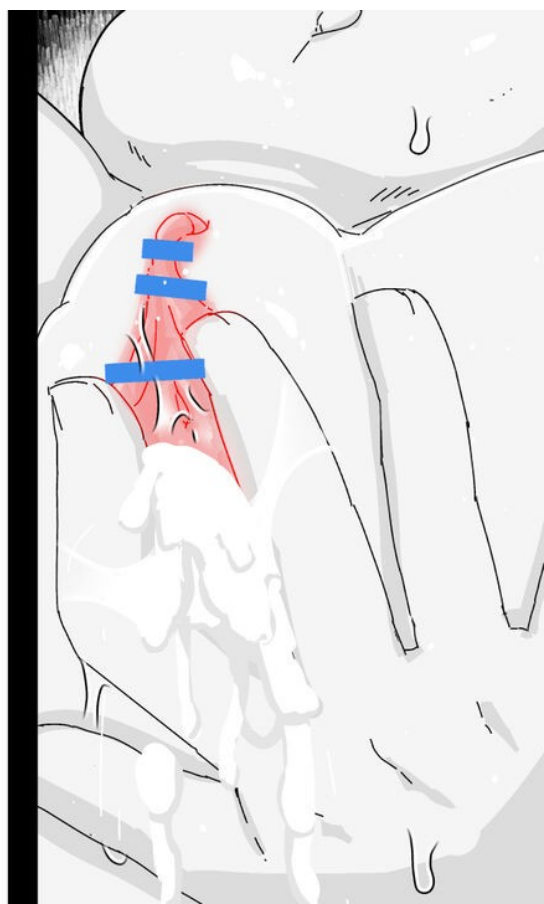


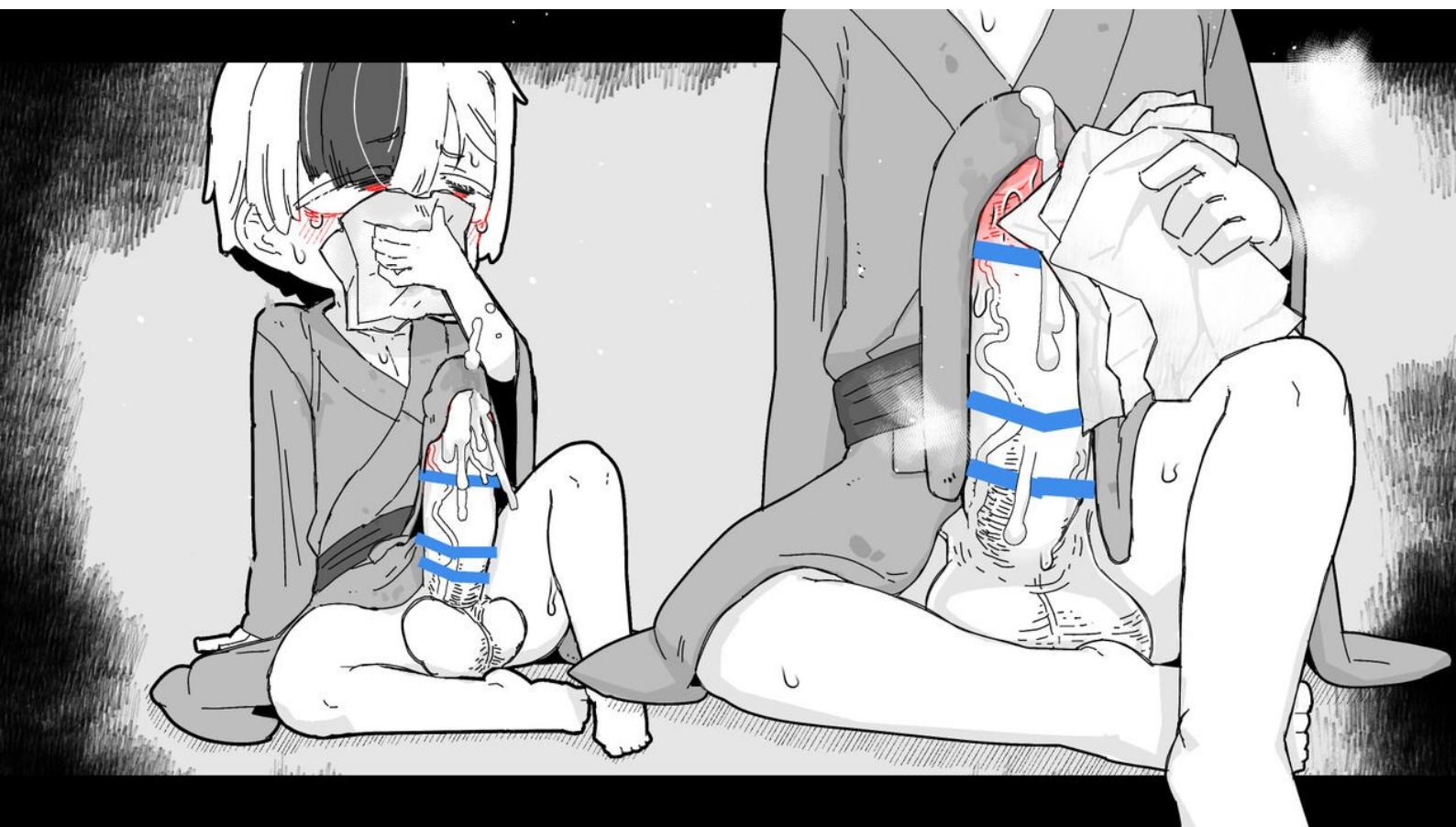


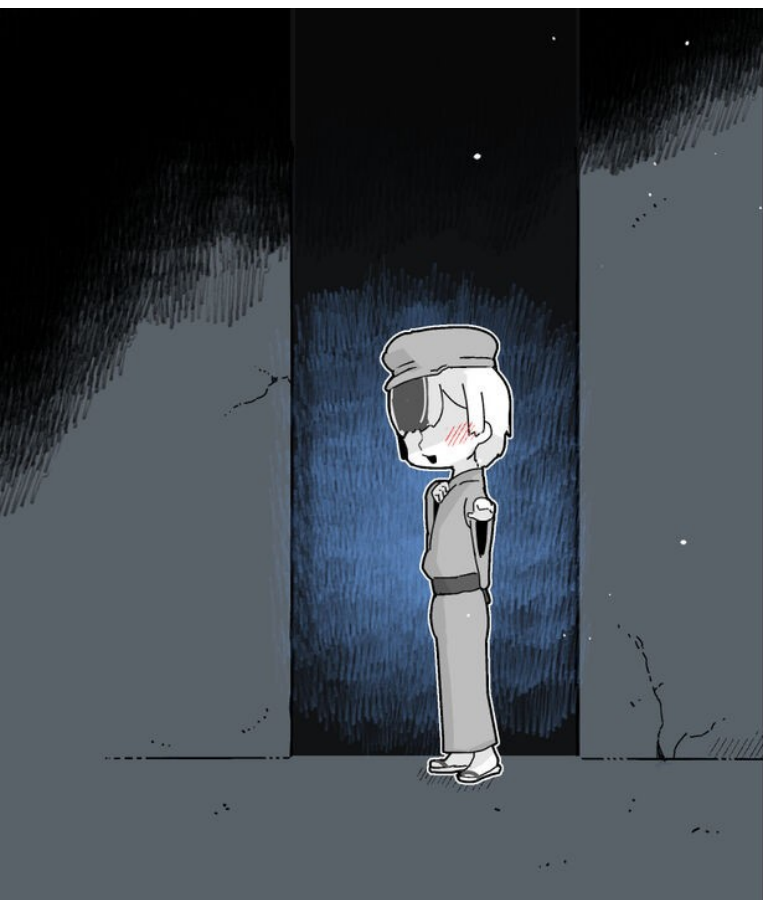


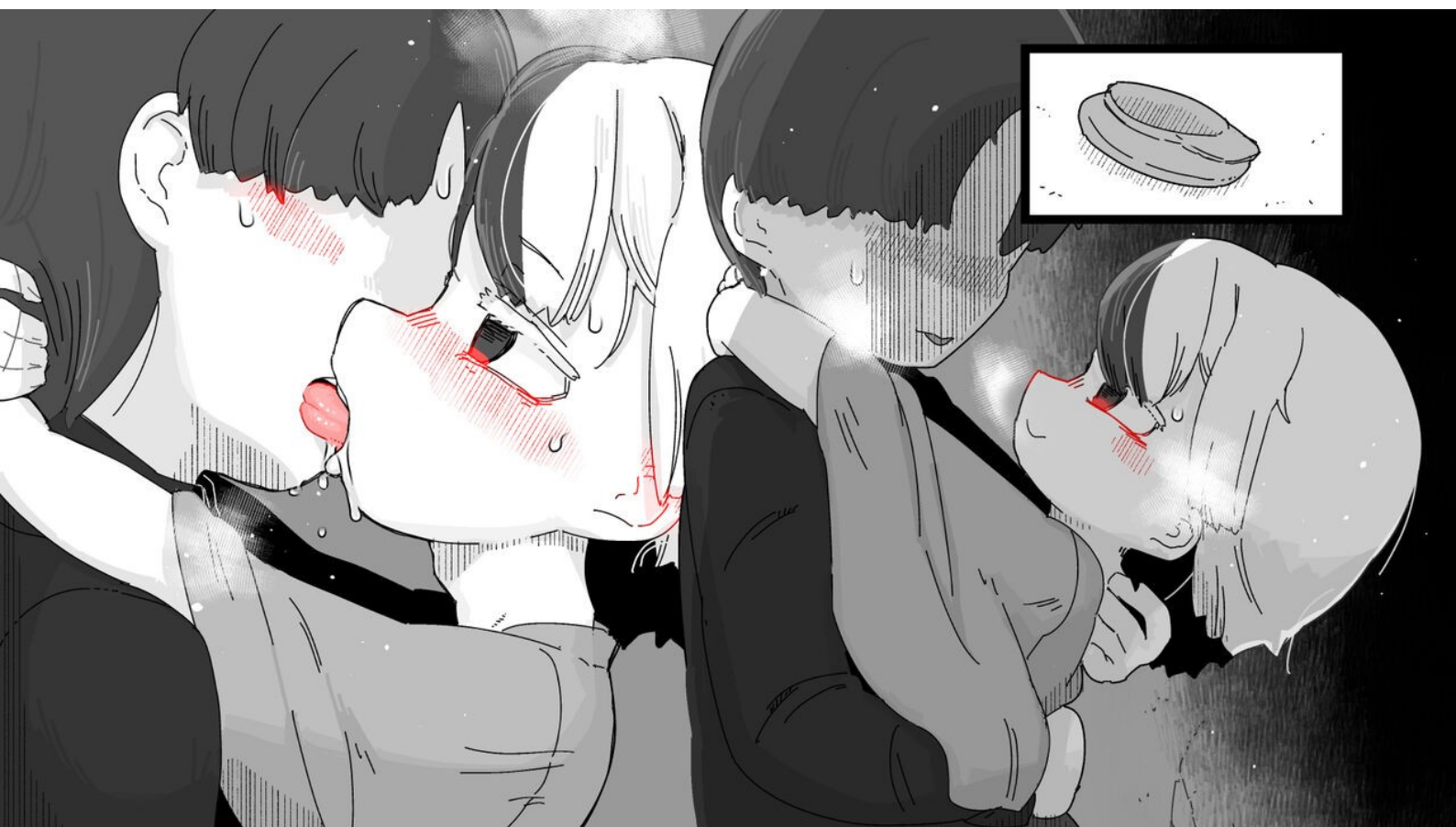


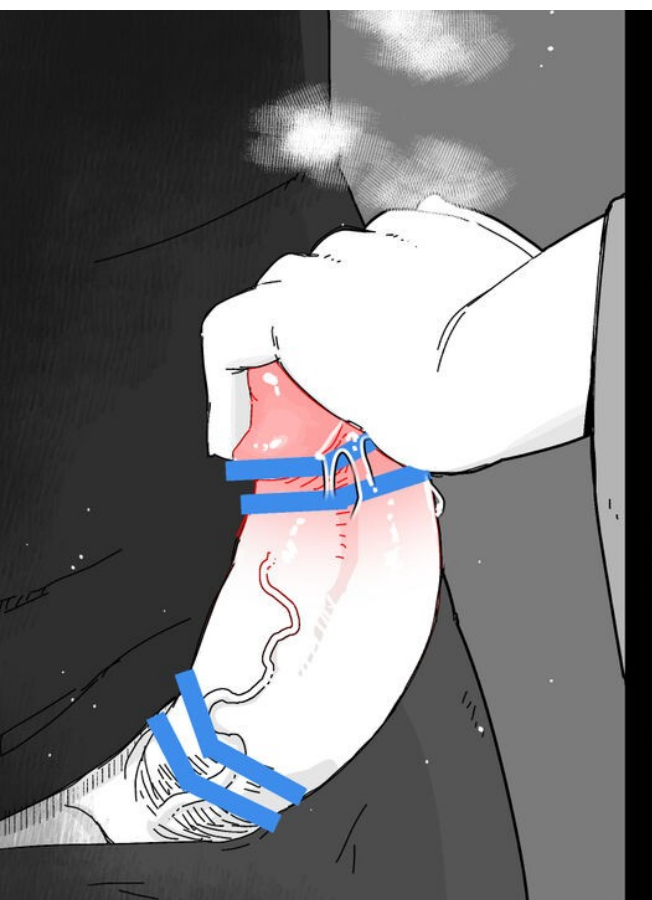


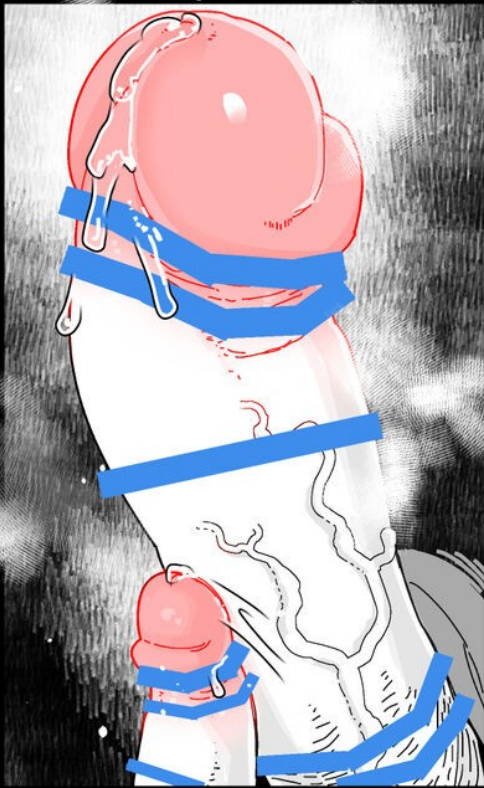








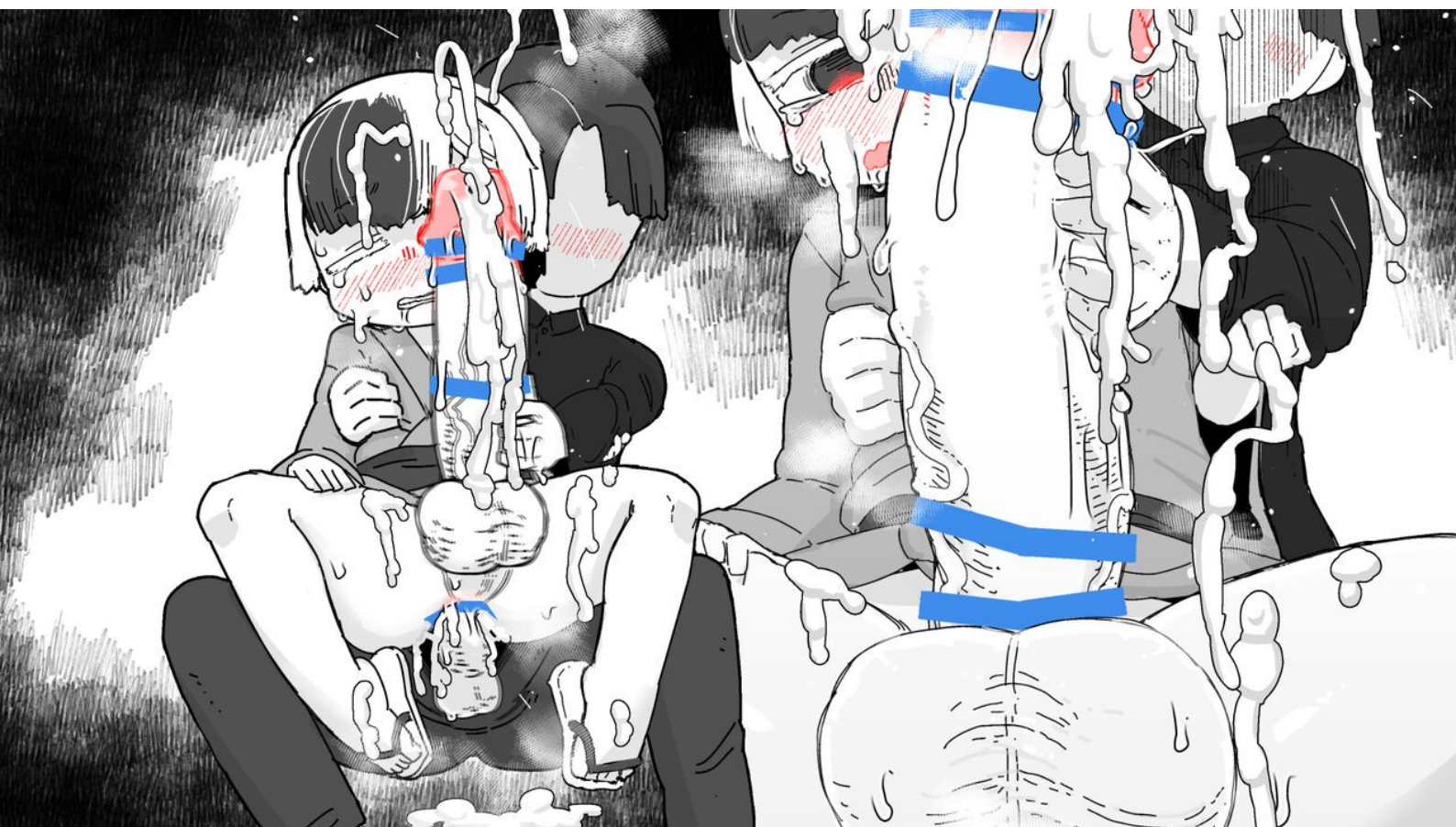




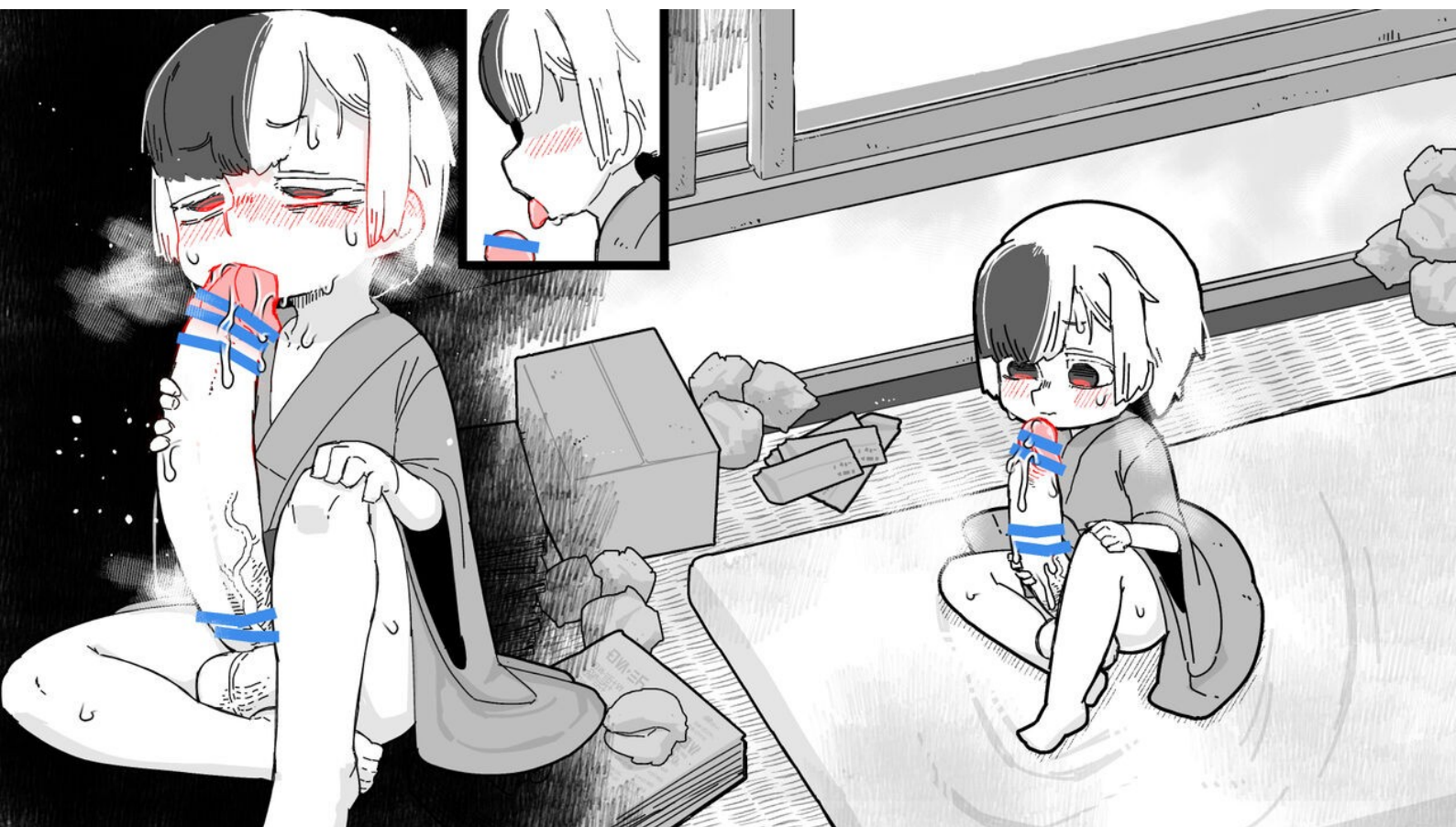




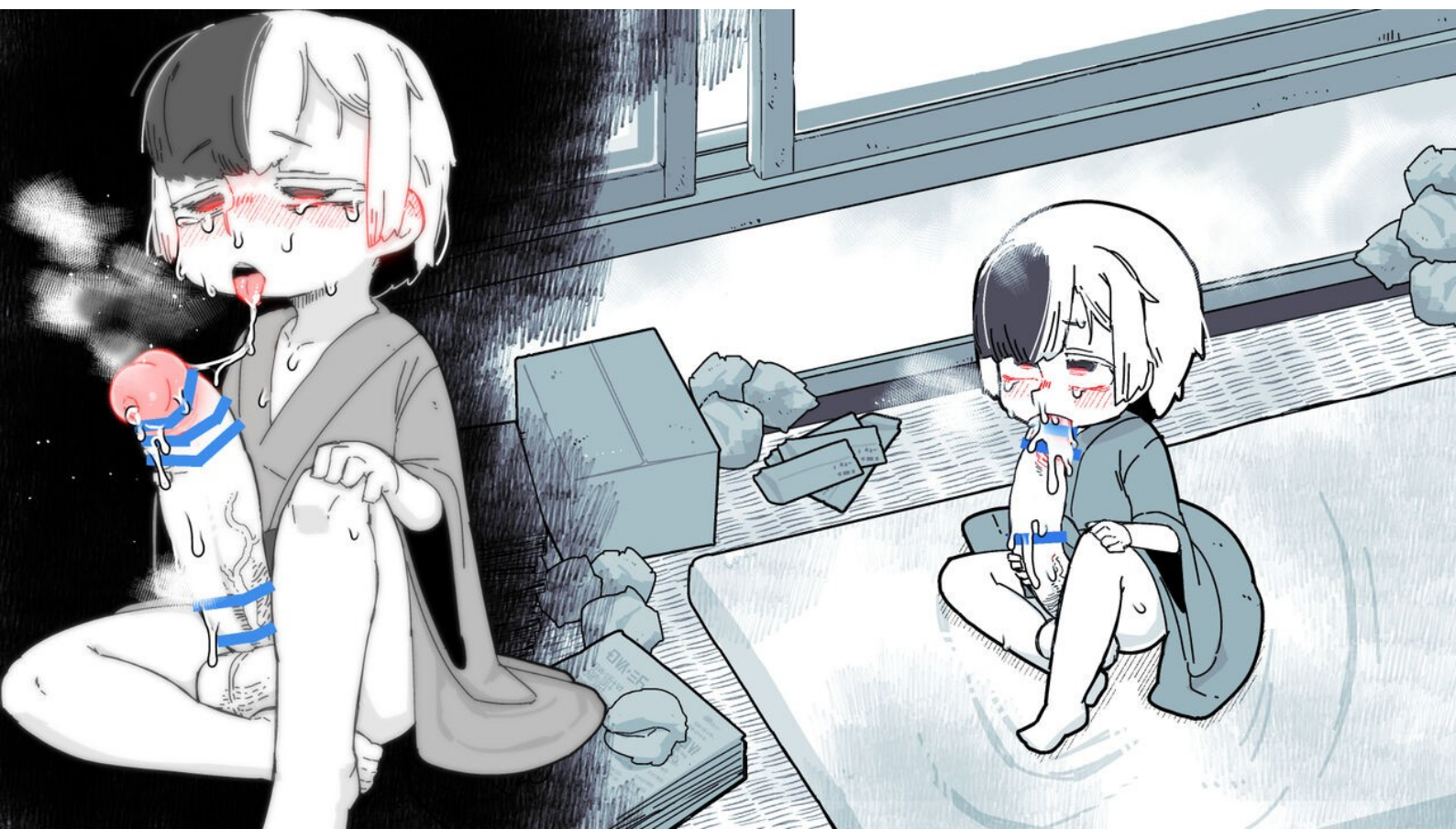


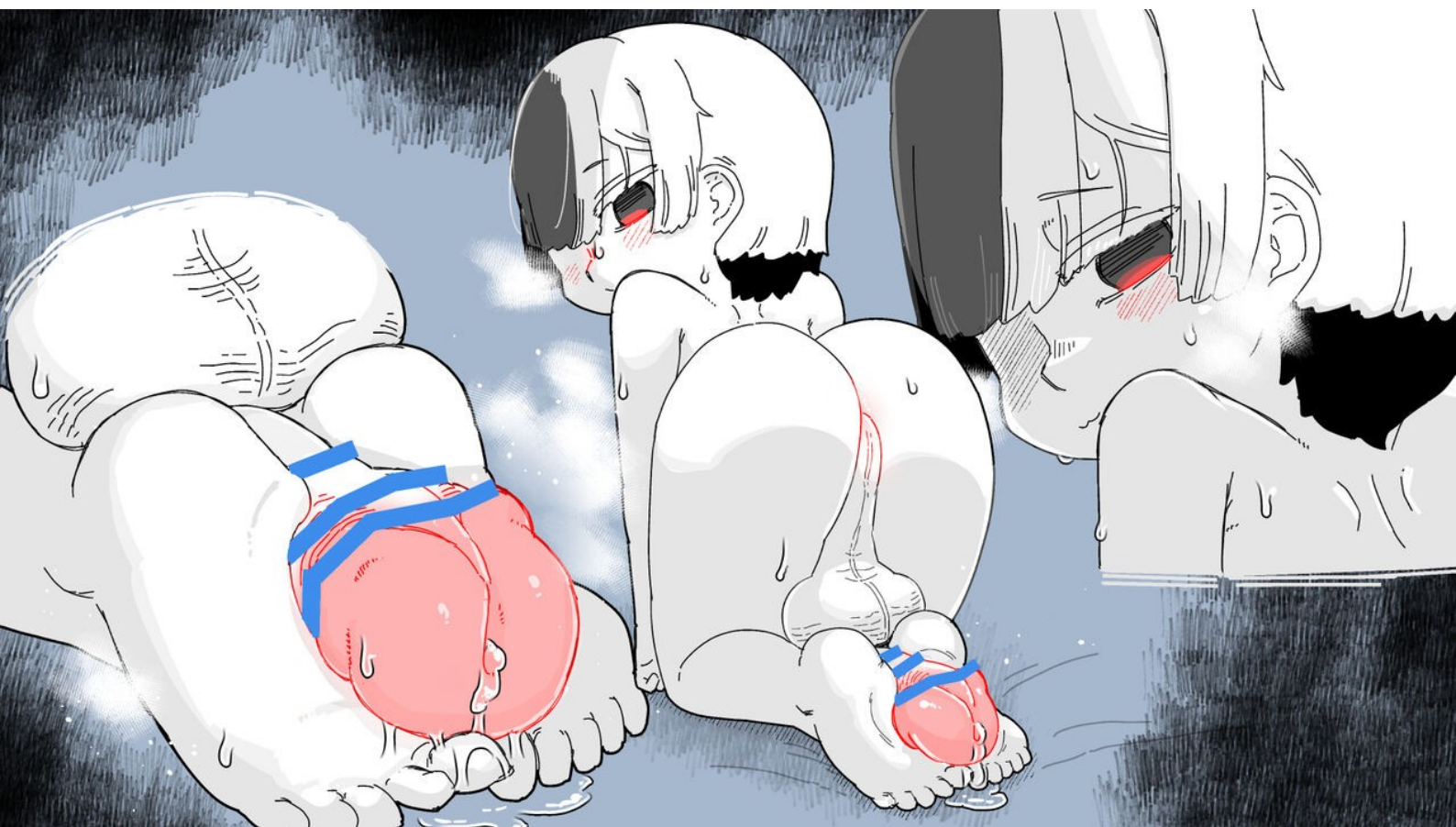


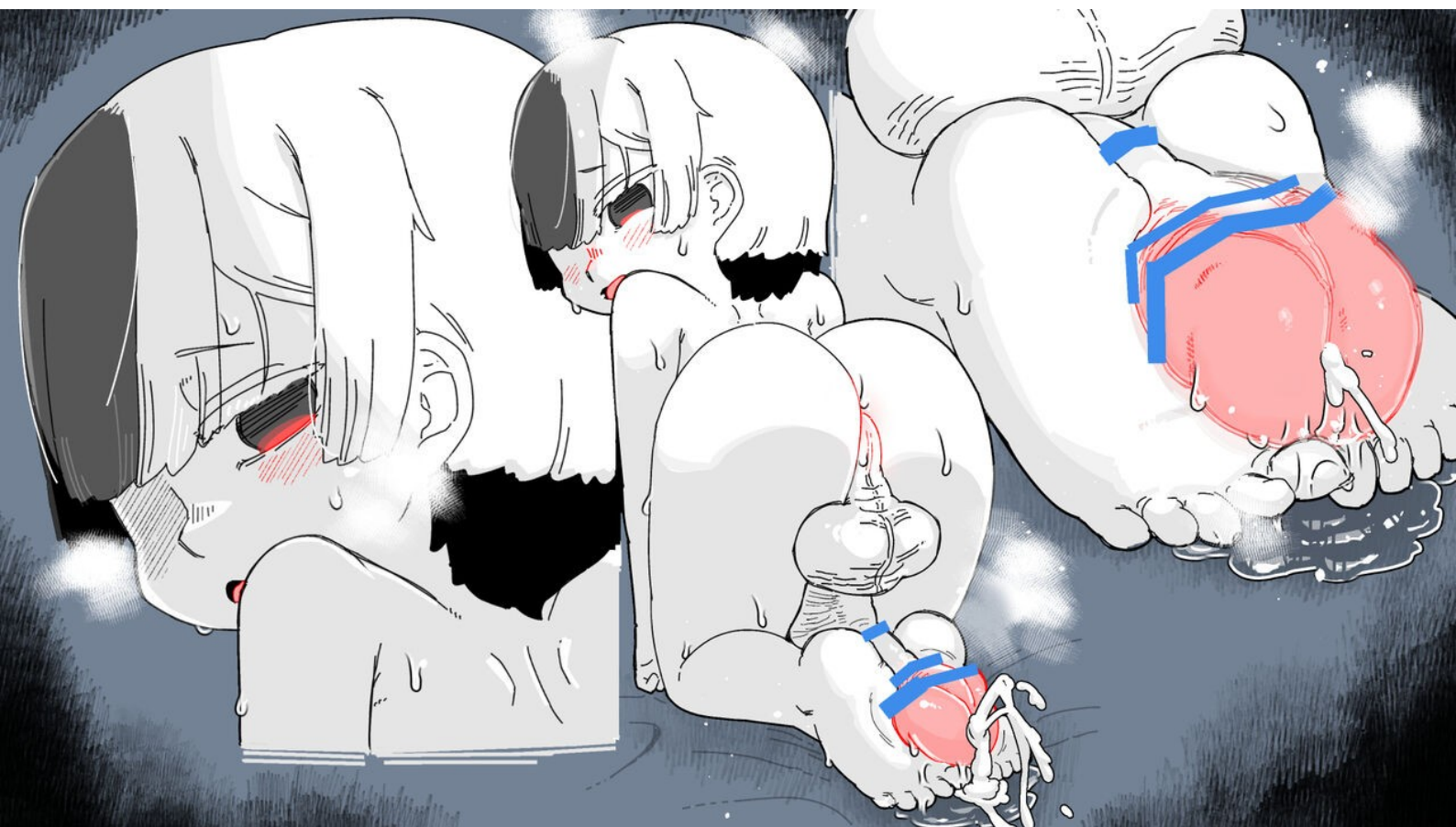


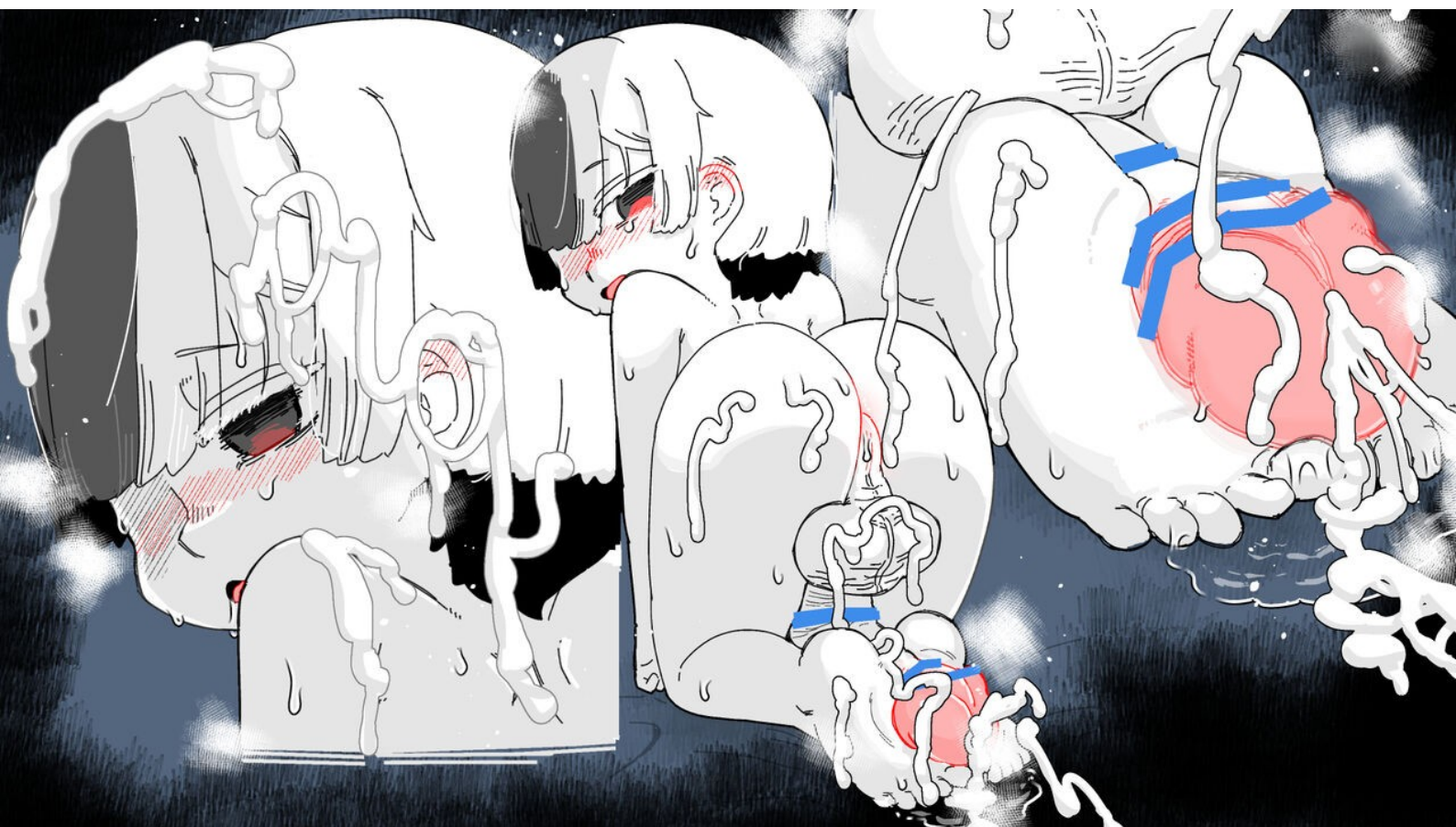












Handwritten text on a tilted piece of paper, likely a note or a small sign. The text is written in Chinese characters and appears to be a list or a set of instructions. The paper is held by a hand, and the background is dark and textured.

Handwritten text on a tilted piece of paper, likely a note or a small sign. The text is written in Chinese characters and appears to be a list or a set of instructions. The paper is held by a hand, and the background is dark and textured.





